ミュンヘンへの道

スキーをはじめとして世界のスポーツ界はアマチュアリズムをめぐって大きくゆれ動いている。

プレ・オリンピックをめぐってのＩＯＣとＦＩＳの対立は耳新しいところであろう。

日本体育協会の新しい時宜にかなったアマチュア規程が発効した。しかし、我々ハンドボールマンは国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）のアマチュア規程、これにのっとって作られている日本ハンドボール協会のアマチュア規程にのっとり、アマチュアの姿勢を正していかなくてはいけない。

アマチュア規程といっても、今日のハンドボール界ではピンとこないかもしれないが、ヨーロッパ球界では、数多くのスレスレの事実が指摘されている。

いわく、金銭による引き抜き運動靴、ボールメーカーの宣伝とまではいかないまでもそれに近い行為などが風聞として入ってくる現在、我々はもう一度自分自身に問いなおす必要があろう。アマチュアリズムでもっともきびしいのはオリンピックであろう。やっと36年ぶりに陽の眼をみるハンドボールのオリンピック参加。これに今日の日本ではピンとこないだけにろっかりしてアマチュア規程違反をおかすことのないように注意していかなければならない。

日本協会では、この新しいアマチュア規程の発効に際し、正しいアマチュアリズムの認識と規程の理解を企るため、第二次オリンピック候補の合宿で、候補選手に対し、12月25日に荒川理事長が講議を行なった。誠に時宜を得た企画といえよう。

候補選手も熱心に聴き、当初一時間の予定が二時間近くになるなど、熱の入った講議であった。

本誌でも、次号もしくは四月号に日本体育協会、国際ハンドボール連盟、日本ハンドボール協会の三つのアマチュア規程の全文を掲載しこの問題の理解を深めたいと思っている。

アマチュアとプロの一線をどこにひくか、原理的に考えれば何でもないことだが、具体的にどこに線をひくかということになると、きわめて難かしい。

ここで全員がもう一度アマチュア規程を通読し、アマチュアとはいったい何なのかを考えておく必要があろう。

オリンピックはアマチュアの競技なのだから

（Ｆ）

時　評

スウェーデンナショナルチームの来日が正式に決まった。昨春の世界選手権6位。村田弘氏（全日本男子監督）の言によれば「ミュンヘンの金メダル候補だ」という。全日本がどう挑むか。9月が待ち遠しい。

ところで、せっかくの好企画だが、日本協会の周辺で不思議な会話がとりさたされているのは気になる。

日本協会は、今回も一銭の身ゼニを切らずこの国際試合を開く、というのだ。

なるほど全国会議で配られた資料によると、今秋のシリーズの総予算額は350万円、それを7試合地に割ったから試合地の負担金は50万円。日本協会からは一銭も出ない勘定である。

だからといって、日本協会は地方協会に負担をかけすぎ、横暴だといえるのだろうか。

日本協会の予算というものは47都道府県が積みあげたいわば結晶であり、本部とはいえ簡単には使えない。その他の収入といえば体協からの競技力向上費約200万円とスポーツ振興金60万円、あとは本誌の購読・広告料審判審査料ていどである。これらの支出先は、協会関係者はもちろん、注意深い読者なら先刻御承知だろう。350万円の特別事業を行うには少なくとも恒例事業を二つか三つ断念しなければならない。

地方協会の関係者は自分たちが日本協会（本部）を盛り立てているのだということを、はっきり認識すべきだ。

案外、野党を自認している地方協会があるのではないだろうか。

日本協会――地方協会との話しあいの場が少ないとも聞くがなんのために理事がいるのだろうか。自分たちのブロックから選出した理事を通して発言の機会はあるハズだ。

本誌への投書という身近な方法もある。

地方協会役員が自らの勝手な判断で、日本協会というものを必要以上に隔離してしまい、ああでもない、こうでもないといっているうちは、日本ハンドボール界のたくましい前進は望めないであろう。ついでながら荒川理事長が記者に語った苦悩を打ちあけておこう。

『スウェーデン戦の負担金が高いといって引きうける地方がない時は全額日本協会が出して実施しよう。しかし、そうなったら女子の世界選手権出場は辞退だ。』

（Ｘ）

「ハンドボール」1・2月号（第83号）目次

ミュンヘンへの道……(1)
時評……(1)
五輪予選女子世界選手権指導陣決る……(2)
男子五輪女子世界選手権候補決定……(3)
全日本五輪予選日本開催を協議……(4)
第17回全日本選抜選手権……(7)
第17回全日本選抜を顧みて……荒川清美……(13)
実業団トーナメント展望……(14)
日韓女子交流……(15)
日韓社会人交流レポート……(16)
海外トピックス……(20)
全国中学校指導者講習会報告③……(22)
女子世界選手権は9ケ国で……(26)
近森選手の欧州球信……(28)
関西学連東海学連を敗る……(29)
各地の記録……(30)
編集後記……(32)

【表紙写真】全日本選抜、日体大―ワクナガ薬品戦（12月19日・東京体育館）　撮影・山田真市

全日本男女指導陣決まる

五輪予選へ村田監督、竹野コーチ

女子は山田監督、宇津野・井コーチ

日本協会は12月20日東京体育館で行われた第17回全日本選抜選手権の閉会式で、本年のミユンヘンオリンピックアジア予選に出場する全日本男子チームの監督に村田弘氏（日本協会オリンピック対策部長）、同コーチに竹野奉昭氏（同部コーチ）を、本年12月オランダで開かれる第5回世界女子7人制選手権に参加する全日本女子チームの監督に山田計氏（日本協会常務理事）、コーチに宇津野年一氏（日本協会技術指導部委員）と井薫氏（同、大洋デパート監督）を決めたと発表した。


男子・村田監督


男子・竹野コーチ


女子・山田監督


女子・宇津野コーチ


女子・井コーチ

オリンピックを狙う男子と〝世界〟を目指す女子のコーチングスタッフが決まった。

オリンピック人事は当然の帰結で、12月19日の常務理事会でもまったく異論は出ず推せんされた。

昨春、オリンピック対策部が正式発足した時点で、すでに村田―竹野ラインは確立されており、いっそうの飛躍が期待されよう。

村田監督は、4年前の第6回世界選手権（スウェーデン）の時から全日本代表の指揮をとっており今年で5年目。檜舞台へ向かってその手腕は高く評価されている。

竹野コーチは、昨夏第一線を勇退したばかりだが、国内・外のビッグゲームにおける豊富な経験と若さは村田監督の補佐役として欠かせぬ存在だ。

なお、両氏の〝任期〟は一応オリンピック予選終了までとされている。

また、今回の決定で村田氏は全日本監督として常務理事（会長推せん）に留り、オリンピック対策部長のポストからは離れることになった。後任は未定で、当分の間同部は竹野コーチのほか、藤本強杉山茂の両氏が情報担当委員で活動するだけとなる。

オリンピック予選の団長とマネジャーの決定は後日に持ちこされた。

女子はベテラン・若手トリオ

女子の役員については、候補選手の選考を手がけた技術指導部選考委員会（12月18日・東京）の意向が12月19日の常務理事会で勝技術指導部長から報告され協議した

有力選手が実業団に散っているなど〝背景〟もからんでこの会議では井薫氏をスタッフに加えることだけを了承したにとどめ、残りの人選については田村会長、荒川理事長、勝技術指導部長に一任、三氏が19日夜改めて検討した結果「山田監督、宇津野、井両コーチ」の線を決定、20日緊急招集した常務理事会の承認を得て発表へこぎつけた。

山田監督の就任は、両コーチに訪欧経験のないことや、女子チーム特有の問題を処理するためベテランの起用といった構想に基いたものである。

宇津野コーチは、以前からその指導力が高く買われており、頂点強化へのコーチに推されていた人だ。桜台高、中京商（現・中京高）田村紡など男女に一線級のチーム、プレイヤーを育成、セオリストとしても定評がある。

井コーチは、国内最強・大洋デパートの発足以来監督をつとめており、フレッシュな指導力に期待は大きい。

男子の竹野コーチを並ぶ若手指導者の双へきといえよう。

各氏の横顔

村田弘全日本男子監督（むらたひろし）、大阪府出身、46才、日体大出、大阪府立三国丘高校教諭第6、7回世界男子7人制選手権監督。昭44欧州遠征全日本男子監督全国高体連常任委員、全日本教職員連盟理事、元日本協会選手権強化対策委員長。

竹野奉昭全日本男子コーチ（たけの・ともあき）、熊本県出身、34才、日体大出、大崎電気工業勤務、第4、5、7回世界男子7人制選手権代表選手、昭40中共遠征昭44欧州遠征、昭45IHF国際コーチシンポジュウム出席

山田計全日本女子監督（やまだかぞえ）、大阪府出身、48才、日体大出、大阪市立工芸高校教諭、全国高体連参与、全日本教職員連盟理事長、IHF公認審判員（昭44国際審判員会議出席）、昭37・43韓国遠征全日本高校選手団役員

宇津野年一全日本女子コーチ（うつの・としかず）、愛知県出身47才、日体大出、名古屋工業大学助教授、全日本学生連盟理事（審判部長）

井薫全日本女子コーチ（い・かおる）熊本県出身、33才、中央大出、熊本大洋デパート勤務、熊本県協会常任理事

五輪第2次候補が決定

新 氷海（日体大）参加

日本協会は12月20日、東京体育館でミュンヘンオリンピック第2次候補選手17名と、第5回世界女子7人制選手権候補選手25名を同時発表した

オリンピック候補は、結果的には第一次候補16名（GK3、FP13）に、FP氷海正行選手（日体大3年、明星高出、1m80、78K）が追加されただけであった。

12月19日の常務理事会ではこの点が議論となり、若い有望選手を追加して候補選手内の競争を高めさせるべきではないかとの意見も多かったが、全日本男子監督に指名された村田弘氏はオリンピック対策部長としての立ち場から今回の選考事情を「有望選手の追加も考えたが、約10ケ月後の即戦力としてはこの17名を上廻る可能性がうすい」と説明、他の選手を追加する意志がない点を強調したため今回は常務理事会も納得した。

しかし、オリンピック予選は日本ハンドボール界の浮沈をかけた重大事でもあり、後日に悔いを残すことは許されぬだけに今後もいっそうの慎重さで選手を選ぶことを申し合せ有力選手が輩出した場合は適宜、候補選手に追加し得るという一項を再確認した。この結果9月のスウェーデン戦（注・全日本が4試合対戦）前に改めて第3次候補を発表、そのメンバーによってスウェーデンと対戦し同シリーズ終了後にオリンピック予選へ出場する16名を最終的に決定する公算が強くなった。

第3次候補の発表期日は未定だが消息筋は6月末の第18回全日本選抜大会後発表されるのではなかいとみている。

なお、第2次候補選手17名は昨年12月21日から26日まで東京・青少年総合センターで強化合宿を行った。

―オリンピック第2次候補選手―

▽GK		
下里	敏彦	（大崎電気）
本田	洋	（日体大）
大村	久	（日体大）
▽FP		
近藤	信行	（大崎電気）
飯田	誠行	（大崎電気）
東	一敏	（大崎電気）
木野	実	（ワクナガ薬品）
早川	清孝	（ワクナガ薬品）
野田	清	（大同製鋼）
藤中	憲二	（大同製鋼）
斉藤	光男	（日体大）
氷海	正行	（日体大）
平岡	秀雄	（東京教員ク）
有永	修二	（立教大）
中井	武三	（同志社大）
新実	俊夫	（芝浦工大）
花輪	博	（中央大）

世界女子候補も発表

目立つ大洋勢

女子は技術指導部内の選考委員会（勝技術指導部長ら9名）によってリストアップされた。

選考の基本方針は、いわゆる〝純粋選抜方式〟と決められ、さらに長身者、将来性などを検討、順当な顔ぶれが並んだ。

女子の強化等については、「純粋な選抜軍」「単独チームプラス優秀選手」「単独チーム」の三案が考えられていたが、男子と同じよう優秀選手を集め、数次の合宿による強化のあと代表選手を最終的に決めることになったものである。

晴れの代表選手は12～14名とみられ、すでにコーチングスタッフが確定しているだけに（2頁参照）早ければ3月末、遅くとも6月頃には発表されることになるのではなかろうか。

第5回世界女子7人制選手権候補選手

▽GK				
小原	名苗	（22	湯出中	—大洋デパート）
長岡	範子	（19	小諸商	—東京重機）
北岡	千賀	（21	高知西高	—中京女大）
坂野	カヨ	（19	花巻南高	—東京女体大）
▽FP				
垂水	秀代	（22	菊池農高	—大洋デパート）
渡辺	須和子	（22	菊池農高	—大洋デパート）
枝尾	清女	（22	小峯中	—大洋デパート）
三宅	美智子	（22	天草高	—大洋デパート）
米	恵美子	（21	熊本市高	—大洋デパート）
島田	夏枝	（20	氷川中	—大洋デパート）
村中	佐千子	（20	菊池農高	—大洋デパート）
蔵田	照美	（20	菊池農高	—大洋デパート）
蓮見	二三恵	（23	昭和学院	—日本ビクター）
江川	ミサ子	（23	会津若松一高	—日本ビクター）
八重樫	優子	（20	花巻農高	—日本ビクター）
木幡	和子	（22	小高農高	—大崎電気）
寺尾	由美子	（20	土居高	—大崎電気）
三浦	朝子	（20	花巻南高	—大崎電気）
滝口	治代	（21	山陽女高	—東京重機）
牧野	涼子	（21	秋田和洋高	—東京重機）
古佐原	ひろ子	（19	小高農高	—東京重機）
渡辺	信子	（21	富田中	—田村紡）
三毛	直子	（20	松阪女高	—田村紡）
永田	美代子	（20	栃木女高	—日体大）
高橋	恭子	（20	秋田和洋高	—東京女体大）

46年度の五輪強化計画

オリンピック対策部（全日本男子ナショナルチーム）では昭和46年度の強化日程を内定した。正式には3月の全国会議で決定する。

それによると、11月のオリンピック予選までに5次65日約500時間の強化合宿が予定されているほかスウェーデン戦期間中（約10日）も合宿を行うことになっている。

また、村田監督の構想ではオリンピック出場権を獲得した場合は47年1月から約40日間のヨーロッパ遠征を行い、ミュンヘンオリンピックでの上位入賞を目標とする

なお、昭和45年度の最終（第3次）合宿は3月19日から8日間水戸または和歌山で行われる。

昭和46年度の合宿日程（予定）

第1次合宿　5月下旬～6月上旬　10日間
第2次合宿　7月　10日間
第3次合宿　8月18日～9月3日　15日間　引きつづきスウェーデン戦合宿
第4次合宿　10月　15日間
第5次合宿　11月　15日間

五輪予選日本開催を協議

2月19日から東京で3国会談

オリンピックアジア予選問題を協議する韓国・イスラエル・アジア3国会議は2月19日から4日間東京で開かれることになった。

※

昨年9月の国際ハンドボール連盟（IHF）総会で47年8月のミュンヘンオリンピックのハンドボール競技は男子16ケ国で行われることが正式に発表され、参加国は昨春の世界選手権上位8ケ国（ルーマニア、東ドイツ、ユーゴ、デンマーク、西ドイツ、スウェーデン、チェコ、ハンガリー）のほかアジア、ヨーロッパ5、アフリカ、アメリカの各大陸代表と決まった。

アジア大陸予選には日本のほか韓国、イスラエルの出場となり、各国でその予選方法について検討を進めていた。日本協会では、斯界初のオリンピック出場を日本の関係者、ファンの前で果たそうとIHF総会直後の常務理事会で日本開催を決議、10月の全国理事会全国評議員会でも支持された。

日本協会は最初のステップとして、11月荒川理事長らが訪韓して韓国協会首脳陣と談合、韓国側は自国への誘致を断念して日本開催に同調することを約束した。

日本協会はただちにイスラエル協会へ打診するとともに、12月バンコクで行われた第6回アジア競技大会に参加の日本体協役員からイスラエル体協役員へ日韓の同意事項の伝言を依頼するなどして、着々とその下準備を行った。

※

3国会議は各国2名の代表によって2月19日・20日本体育協会会議室で本会議を開き、日本案に対する意見を調整したうえ三国の同意を得ればただちに調印を行う。

ミユンヘンオリンピックアジア予選
日　程　案（日本協会案）

11月14日（日）	第1戦	日本—イスラエル	（東　京）
17日（水）	第2戦	韓国—イスラエル	（東　京）
20日（土）	第3戦	日本—韓　国	（大　阪）
～以上第1次リーグ～			
23日（祝）	第4戦	日本—イラスエル	（名古屋）
25日（木）	第5戦	韓国—イスラエル	（東　京）
28日（日）	第6戦	日本—韓　国	（東　京）
～以上第2次リーグ～			

第3戦は場合によっては21日（日）

このあと、大会実施面の協議に進む予定だが、今回の会議では細部までには亘らず、

一、審判員はIHFが派遣する第三者国による

一、使用球

の二点のみが確約されるとみられる。

日本協会では、順調に会議が終了すれば21、22日の両日会場となる東京体育館、愛知県体育館（名古屋）、大阪府立体育館に各国代表を案内することにしている。

注目されるイスラエルの態度

日本協会筋では、すでに韓国が日本案に賛同しており、イスラエル側の承諾も得られるだろうという見方を強くしているが、1月20日現在イスラエルの意向はまったく伝えられて来ていない。一まつの不安が残されているのも事実だ。

日本協会では、本誌82号詳報のとおりイスラエル、韓国に対して往復旅費の30％負担と滞在費13泊日分の全額負担を明示したが、消息筋はこの数字でもイスラエルを動かす決定的な材料にはならないだろうといっている。

しかし、日本協会の財政ではこれ以上の条件ははじき出せず、会議の難航が予想されよう。

また、日本開催にこぎつけても日程（対戦）、使用球、会場などの問題は簡単に合意点へ達するとは思えない。この点については韓国協会も白紙の立ち場であり多くの意見が出されそうだ。

小規模とはいえ日本協会が国際会議を主催するのは初めてで代表出席者はもとより、慎重な運営と準備が強く望まれる。

アジア連盟問題も具体化へ

なお、3国会議終了後、台湾協会代表を交えて、アジアハンドボール連盟結成問題が協議される。すでに、日本協会によってアジアハンドボール連盟規約草案が用意されており、早ければオリピンック予選時に正式発足することが申し合わされることになろう。

世界女子候補の選考から

今回の候補選手で注目されるのはナンバーワンの大洋デパートから9名の選手が選ばれていることと現役学生界から4名が加っていること流会となって涙をのんだ前回（昭和43年12月）の代表選手のうち小原、垂水（ともに大洋デパート）蓮見（日本ビクター、当時三菱鉛筆）の3選手が健在ぶりを発揮して再び選ばれたことであろう。

初合宿終る

6年ぶりに開かれる第5回世界女子7人制選手権（12月9日～20日・オランダ）への出場を目指す候補選手の初合宿は1月21日から26日まで東京・青少年総合センターで行われた。

日体大、12年ぶりに優勝飾る

〜 第17回全日本選抜選手権、東京 〜

女子は大洋デパートが連続

今シーズン全国大会で活躍したチームやプレイヤーによるビッグエベント・第17回全日本選抜選手権は12月18日、19、20日の3日間東京体育館で行われた。

男女ともはげしい対抗意識を燃やす四強の対戦とあって各試合とも白熱、盛りあがりをみせた。

男子は、学生界ナンバー・ワンの日体大（東京）が第1日に全日本チャンピオンの大崎電気（埼玉）を押し切って、余勢をかって、国体優勝のワクナガ薬品（大阪）にも鮮やかな作戦勝ちをして早くも第2日で優勝の色を濃くした。

第3日埼玉教員ク（埼玉）の巧みな試合運びに苦しめられたが、辛くも1点差で勝ち3戦全勝、昭和33年の第4回以来、12年ぶり4度目の優勝を飾った。

大崎電気、ワクナガ薬品の両チームが国体以来大試合から遠ざかっていたのに対し、日体大は11月のインカレを好調にのりきり優勝をし、トップコンデイションでこの大会にのぞみ、速攻を中心とする攻撃とGK陣を主とした記事な守りで、見事宿願をとげた。

日体系チームが全国タイトルを獲得したのは昭和38年12月の第10回全日本総合室内で全日体大が優勝して以来のことである。

女子は予想どおり大洋デパート（熊本）が夏の全日本総合秋の国体よりはやや下り坂といわれながらも確実に勝ち星を重ねた。これに対して大崎電気（埼玉）、日本ビクター（茨城）も気力充分に対抗、初出場の全日本学生選抜軍の健斗も注目された。

大洋デパートの優勝は2年連続2度目。これで43年夏の第20回全日本総合選手権以来、出場した10度の全国大会にすべて優勝という快記録をマーク。46年3月の全日本実業団（横浜）に勝てば2年連続〃四冠王〃という大偉業を達成する。この間、44年の第15回全日本選抜には出場していないので、三年間出場した全国大会はすべて優勝するという大記録である。

なお、この大会は冬季の大会として、総合室内選手権、全日本選抜選手権という形で広く一般に、親しまれていたが、日本協会の各種大会を整理し名実ともに最高の大会をシーズンの深まった時に行ない、文字通りの日本一を年度の総決算として、総合選手権で決定することになり、この大会は来年度から上半期に移り、第18回大会は6月25、26、27日の3日間東京体育館で行われる予定になっている。

（観衆、第一日＝千二百、第二日＝二千六百、第三日＝四千）

男子リーグ

	体	ワ	大	埼	P	勝	敗	分	得	失
①日体大	…	○	○	○	6	3	0	0	33	27
②ワク薬	●	…	○	○	4	2	1	0	55	38
③大崎電	●	●	…	○	2	1	2	0	46	43
④埼玉教	●	●	●	…	0	0	3	0	33	56

女子リーグ

	大	ビ	崎	学	P	勝	負	分	得	失
①大洋	…	○	○	○	6	3	0	0	35	18
②ビクタ	●	…	△	○	3	1	1	1	23	18
③大崎電	●	△	…	○	3	1	1	1	31	30
④全学生	●	●	●	…	0	0	3	0	14	37

Pはポイント　勝2，分1，敗0点

年次優勝チーム

	男子	女子
①昭29	日体大	春日丘ク
②昭31. 3	日体大A	日体大
③昭31. 12	全芝工大	日体大
④昭33	日体大	半田高
⑤昭34	全日体大	寝尾川ク
⑥和35	全芝工大	熊本ク
⑦昭36. 1	全日体大	熊商大ク
⑧昭36. 12	大崎電気	愛知紡
⑨昭37	全日体大	愛知紡
⑩昭38	全日体大	大崎電気
⑪昭39	全立教	田村紡
〜以上全日本総合室内選手権〜		
⑫昭40	芝浦工大	田村紡
⑬昭41	全立教	大崎電気
⑭昭42	芝浦工大	田村紡
⑮昭43	全立教	大崎電気
⑯昭44	大崎電気	大洋デパート
⑰昭45	日体大	大洋デパート

男子リーグ

ワクナガ、後半に地力

ワクナガ薬品(大阪) 26（12—9 / 14—5）14 埼玉教員ク(埼玉)

位置	【埼玉】	得
GK	高橋	0
FP	高田	3
	高戸	2
	北井	4
	中島	0
	河住	4
	結城	1
	上久保	0
	金子	0

位置	【ワク】	得
GK	今井	0
FP	市原	3
	木野	4
	早川	3
	森	1
	高橋	6
	戸田	6
	松井	0
	藤井	3
	菅	0
	久保	0

（審・山内、斉藤）

26（2）　7MT　（2）14

前半ワクナガは3分7MTで先取木野がマンツウマンで15分間マークされたがよくボールを回し、チャンスをつくり、市原、戸田がロングシュートで、サイドから高橋が決めた。これに対し埼玉教員は高田と北井がよくリードしながら自らロングシュートで、また、河住をポストで生かし応戦。12—9の点差で前半を終った。

後半、埼玉教員は走りがなくなり個人の単独プレーが目立ちワクナガのデフェンスの前でボールを回すのが多くなり、北井の単発シュートのみであった。対するワクナガは出足が良くなりカットボールからの速攻が良く決まり、セットでも多彩なプレーをみせ、12点差で一方的な試合となった。

後半、ワクナガは19本のシュートのうち13ゴールをあげ、埼玉はほぼ同数の17本のシュートを放ちながら、走りがなく、ムリな体勢からのものが多く、僅かに5点しか得点があげられなかった。後半に走る力の差がありありと見えた。（近藤）

王者・大崎緒戦に敗る

日体大(東京) 12（6—5 / 6—5）10 大崎電気(埼玉)

位置	【大崎】	得
GK	下里	0
FP	西村	0
	近藤	3
	籏野	1
	飯田	2
	東	2
	谷口	2
	佐藤	0
	林	0
	沢田	0

位置	【日体】	得
GK	本田	0
	大村	0
FP	斉藤	6
	安達	1
	串野	2
	田中	0
	氷海	0
	松原	3
	高橋	0
	佐藤	0
	松岡	0
	亀谷	0

（審・大塚、岡村）

12（1）　7MT　（2）10

全日本総合、実業団と優勝をかざり、ハンドボール界のリーダ大崎に対して、学生界のチャンピオン若さの日体大がどのように戦うか興味ある一戦であったが、近森を欠き、東を徹底したマンツーマンで大崎のボールメーカの動きをふうじた日体大のベンチの作戦が功を通し、攻めてはGK本田の再三の攻守からの球出しに斉藤を中心に良く走り日体大の良さが目につき、大崎のちぐはぐな攻撃がより一層目についた。前半25分までは6—1と日体大の一方的なゲーム展開であったが、のこり五分日体大の雑なシュートを確実に返し6—5と1点差に追いこんだ。試合巧者大崎の後半に注目する好ゲームとなり前半が終った。

続く後半も一点を争う好ゲームとなったが、大崎は40分まで、12本のシュートを放ちながら、得点は39分30秒の谷口の1点のみ。大崎はどうしても同点とすることが出来ず苦しんだ。一方若い日体は着々と得点を重ねていったが55分頃から大崎はじりじりと追い上げて12—7から12—10までになったがあまりにも反撃が遅くどうすることも出来ず、大崎の完敗であった。（青木崇）

大崎、前半で勝負決める

大崎電気 25（14—4 / 11—8）12 埼玉教員ク

位置	【埼玉】	得
GK	高橋	0
FP	高田	1
	高戸	2
	北井	5
	中島	0
	結城	3
	河住	0
	上久保	1
	金子	0
	宮岡	0

位置	【大崎】	得
GK	下里	0
FP	東	4
	飯田	6
	籏野	3
	谷口	0
	近藤	5
	佐藤	2
	林	3
	沢田	1
	西村	1

（審・岡村、徳前）

25（1）　7MT　（2）12

試合は2分埼玉の上久保のサイドシュートによる得点で均こうがくずれた。

すぐ大崎も4分飯田のたおれこみ、5分ロング、つづいて6分近藤の早いモーションのシュートが決まり、完全に大崎ペースの試合となった。

埼玉は攻めても攻めても、GK下里の好守に阻まれ、守りは手うすなサイドを攻められ、サイドに回われば中央からと、完全に大崎ペースにはまってしまい、全く精彩なく14—4と大差をつけられてしまった。

後半になり、北井、上久保を中心にして、ディフェンスをたておし、これが成功し、大崎の攻撃が今一つ軌道にのらないところをつき、反撃に転じたが、結局、前半の大差を縮めることはできなかった。（斉藤）

高橋好マーク、木野を完封
日体大、気力の2連勝

日体大 13（7—3 / 6—7）10 ワクナガ薬品

位置	【ワク】	得
GK	今井	0
FP	市原	2
	木野	0
	早川	2
	森	0
	高橋	5
	戸田	0
	松井	0
	藤井	1
	久保	0
	菅	0

位置	【日体】	得
GK	大村	0
	本田	0
FP	安達	1
	串野	2
	氷海	1
	田中	0
	斉藤	3
	高橋	2
	松原	4
	松岡	0
	佐藤	0
	亀谷	0

（審・近藤、大塚）

13（0）　7MT　（3）10

常勝・大崎を破り、意気あがる若さの日体大が、国体優勝、また本大会の本命と目されるワクナガ薬品にどのように挑むか興味深い一戦であった。

試合開始後、双方慎重に相手の出方をうかがっていたが、日体大は4分にサイドから松原が決めて均こうを破った。以後、7分に氷海、12分に串野、17分に安達と決めたがワクナガは得点ができない。

ワクナガの初得点はやっと20分になって、藤井が7MTをうってきめたもの。

ワクナガはエース木野が日体大高橋のしつようなまでのマンツウマンのマークにあって動きがとれない。サイドに出たり、ポストに入ったり、遠く外に出たり、種々のことをするが、そのマークの外に出ることはできなかった。早川市原がボールを廻してはいるが今一つコンビがとれない。しかもうつシュートは本田に替って、出場した大村の好守にあって、決らない。結局、前半は7—3。

後半、ワクナガがこのマンツウマン策にどのように対処するかに興味がもたれた。

ワクナガも日体大の斉藤をマンツウマンマークに出、日体大のペースの整わないスキに乗じ、高橋早川らの好技で44分には、9—9の同点にもちこんだ。。この間日体大にはややついていない場面が見受けられた。

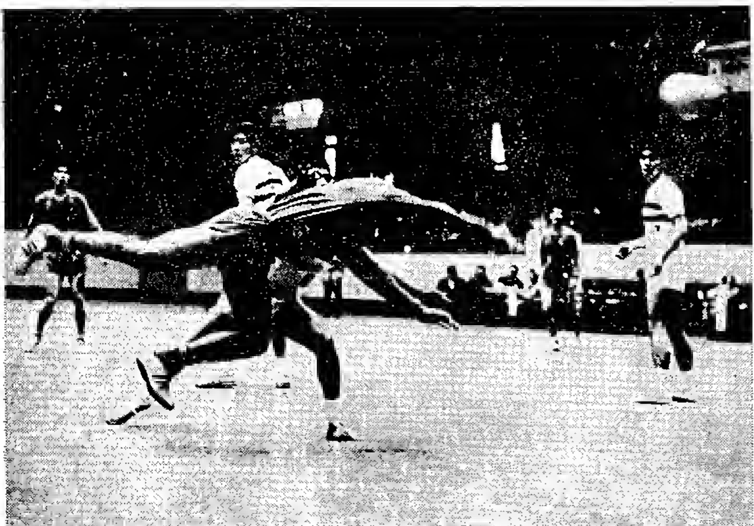
ここで日体大は好守の大村にかえて、本田を入れ、精神的動揺を立て直しにかかった。この作戦が見事に功を奏し、得意の速攻で、21分までに4点を連取し、13—9と一応の安全圏に逃げこんだ。



大崎電気―埼玉教員



ワクナガ薬品―大崎電気



日体大―ワクナガ薬品

この間ワクナガのうつシュートのほとんどが本田の好守からの絶好の球出しを生み、これが得点につながった。結局9―9からの5分間の勝負がこの試合を決めたといっても良いであろう。

そのあとのワクナガの攻撃を59分森の7MT1点に押え、貴重な二勝目をあげた。

日体大の勝因は苦さ溢れる走力と前半に見せた大村、ピンチに冷静な判断で好守、好送球を見せた本田の両GKの好技、さらには、ミスプレーをおそれず、どんどん攻撃させたベンチワークにあろう

一方ワクナガは国体以来、大試合に遠ざかり、今一歩のパスの確実さがなく、破れた。（青木）

埼玉教員ク善戦空し

日体大 8（5―4, 3―3）7 埼玉教員ク

得	【日体】		【埼玉】	得
0	本田	GK	高橋	0
0	大村	GK	細野	0
1	高橋	FP	金子	0
2	松原	FP	高田	0
0	串野	FP	高戸	0
0	氷海	FP	北井	4
4	斉藤	FP	中島	1
1	安達	FP	結城	1
0	田中	FP	河住	1
0	松岡	FP	上久保	0
0	佐藤	FP		
0	亀谷	FP		
8	（1）	7MT	（0）	7

（審・斉藤 山内）

大崎・ワクナガを破り意気あがる日体大が立ちあがり30秒ゴール前のローリングからエース斉藤の右45°からのミドルシュトで先制した。守っては高橋が埼玉の北井を徹底したマンツウマンでその動きとボール展開を封じたが埼玉のゆっくりした攻めに日体デュフエンスがうきあがる所をポストシュートで応しゆうし2対2。18分過ぎに埼玉が1点リードをうばったが、斉藤がすぐ返し同点とし20分には松原が中央からミドルでものにしペースをつかむかに見えたが埼玉の中島が北井をマークしている高橋にブロックさせ北井がゲットして同点、のこり10秒松原がきめ5対4で前半が終る。前半日体大得意の速攻も出ずまたボールキープも4分位でのこり25分位は埼玉がキープし日体大の良さがみられなかった。しかも、埼玉の意識的な遅攻に日体ディフェンスがとまどったようだった。

後半日体大は北井のマンツウマンをとき埼玉に早目に打たせる作戦にきりかえ、GK本田を入れ守りをかため高橋のみごとなスカイシュートで2点のリードをうばい45分が過ぎる。

48分北井が返し1点差となりゲームはのこり12分にかかった。53分、北井が中央からゲットし同点に場内がわいたが、日体大はすぐ斉藤が7MTをきめ1点リードをうばい押しきる。

得点は接戦であったが、内容的には少々ものたりなかったような感じがした。しかし今大会勤務の関係で満足な練習ができなかった埼玉は最後まで全力をつくしたプレーには好感がもてた。（青木崇）

大崎電気精彩を欠く

ワクナガ薬品 19（9—4 / 10—7）11 大崎電気

【大崎】		得
GK	下里	0
GK	岩下	0
FP	西村	1
FP	近藤	3
FP	籏野	1
FP	飯田	3
FP	東	2
FP	谷口	1
FP	佐藤	0
FP	村	0
FP	史田	0
FP	井上	0

【ワク】		得
GK	今井	0
GK	杉野	0
FP	市原	3
FP	木野	2
FP	早川	5
FP	森	3
FP	高橋	3
FP	戸田	3
FP	松井	0
FP	久保	0
FP	藤井	0
FP	菅	0

（審・近藤 大塚）

19（1）　7MT　（2）11

最終戦をかざるにふさわしいカードと期待されたが、このゲームの前に日体大の優勝が決ってしまったのでちょっとさびしい気持はするがお互にオリンピック候補同志をそろえているだけにすばらしいゲーム展開が予想されたが、試合が始まって見るとワクナガ薬品は遅攻・速攻と着実に得点を重ねたが一方の大崎電気は昨日の調子が出ずに、ディフェンスあるいはシュートがさえず苦戦の連続で良い所なく前半を終了した得点上では9—4でワクナガの一方的なゲームである。

後半に入って大崎電気の反撃が期待されたが依然としてワクナガのペースが変らず一度として大崎電気らしい攻撃が出ずにずるずるとして試合が終った。ワクナガの完勝であった。

大崎は前半、一応籏野をマンツウマンで木野にあてたが、木野をマークしきれず、一寸したスキに動かれ、得点を許すという場面が見られたし、日体戦と変って、木野をマークされながらも、市原、早川を中心にしたコンビプレーが冴え、そこからくりだされるパスを森、高橋、戸田が随所に得点に結びつけた。一方の大崎は、今一つコンビの冴えが見られないことと人数不足からくる質に於ける練習量の不足のためか、シュートにも鋭さが見られず、再三のノーマークのチャンスを逸すなどあってとうてい勝ちめのある試合ではなかった。（松田）

女子リーグ

垂水・渡辺コンビ抜群

大洋デパート（熊本）16（9—4 / 7—1）5 全日本学生選抜軍

【大洋】		得
GK	小原	0
GK	斉藤	0
FP	垂水	6
FP	渡辺	8
FP	米	0
FP	三宅	1
FP	島田	0
FP	枝尾	1
FP	小林	0
FP	村中	0
FP	蔵田	0
FP	加子崎	0

【全日本学生】		得
GK	秋間（日体大）	0
GK	坂野（東女体大）	0
FP	高嶋（日体大）	0
FP	永田（日体大）	0
FP	福田（日体大）	2
FP	堀江（東女体大）	1
FP	中本（甲子園大）	0
FP	小貫（日体大）	1
FP	赤塚（日体大）	0
FP	水上（東女体大）	1
FP	安田（中京大）	0
FP	嶋田（日体大）	0

（審・青木 徳前）

5　（1）　7MT　（2）16

大洋は開始後10秒垂水のポストプレーにて先行、一方全日本学生選抜も20秒福田のサイドよりのシュートがきまり両チームともスタートは上々であった。

大洋は左の4番渡辺が5分、8分と連続得点をした。全日本選抜も7分7MTにて堀口が得点。大洋はサイド、中央と多彩なプレーをみせて得点を重ねる。全日本選抜はミスパスがあり得点出来ず前半9—4で終了。

後半に入り大洋は前半同様良く走り得点する。全日本学生選抜も良く奮闘するも大洋の良くコンビのとれたディフンスにあい得点出来ず、大洋の一方的な試合となる。実力の差はどうする事も出来ず16—5で試合終了、両チームとも良く走り好感がもてた。

大洋は垂水、渡辺の息のあったコンビで着々と加点、良く二人で14点の大量得点をあげた。

一方、学生選抜軍はつぶしの早い大洋のディフェンスにあって、シュートにつながる動きが少なくチャンスがつかみ得なかった。

今後動きに一段と磨きをかけるように研究をつかんでいかないことには、実業団との差をつめることは困難になろう。（山内）

ビクター・大崎分ける

日本ビクター（茨城）10（8—5 / 2—5）10 大崎電気（埼玉）

引き分け

【大崎】		得
GK	和田	0
GK	小堀	0
FP	木幡	1
FP	新島	0
FP	寺尾	2
FP	三浦	5
FP	真田	1
FP	長谷川	0
FP	佐藤	1
FP	岡井	0

【ビク】		得
GK	吉田	0
FP	蓮見姉	3
FP	江川	1
FP	八重樫	2
FP	阿保	0
FP	阿部	3
FP	蓮見妹	0
FP	大塚	1
FP	滝	0

（審・近藤 松田）

10　（2）10

ボールを右に左にと振って全員がよく走る大崎対蓮見姉の強打を期待するビクターの試合は予想通り激しい攻防戦が展開された。

前半立上りから両チーム共早いパス廻しからゲームははじまり、3分大崎がフリースローを決め先攻。続いて、三浦が右サイドから決め、まず大崎ペースで試合は開始された。しかしビクターも阿部の活躍により6分、7分とすぐ返し同点とする。しかし15分をすぎる頃より強打にまさるビクターが蓮見姉の好プレーで優位に立つ。しかし大崎も寺尾—三浦のコンビがさえ必死にビクターを追い前半8—5で終る。

後半に入りビクターはすぐ得点をあげ9—5と大きくリードし勝負あったかに見えたが、その後ビクターの一寸した油断を大崎がつき9—8と追上げ、その後両チーム共雑な攻めで得点を上げる事が出来ず45分大崎は真田のポストプレーで同点、その後47分大崎7MTを得てこれを寺尾が決めリードそのまま逃げ切るかに見えたが、49分蓮見姉のごうかいなシュートが決まり同点、そのまま引き分けに終った。最後迄試合をすてなかった大崎チームの健闘が光った。

前半はビクター、後半は大崎という試合展開であったが、両チームとも最後まで、勝利を握ろうとする闘志を見せあった好試合であった。（佐野）

ビクター学生に完勝

日本ビクター 9（3—0 / 6—2）2 全日本学生選抜軍

両チームともシュートはろつが得点に結びつかない。0—0のまま重苦しいふんいきで試合は進んでいく。ようやく、6分30秒蓮見

	【学生】	得	【ビク】	得
GK	坂野	0	吉田	0
GK	秋間	0		
FP	水上	0	江川	1
FP	堀江	0	八重樫	1
FP	福田	1	蓮見姉	4
FP	赤塚	0	阿部	1
FP	小貫	1	阿保	2
FP	嶋田	0	大塚	0
FP	永田	0	蓮見妹	0
FP	高嶋	0	滝	0
FP	川井	0		
FP	安田	0		
7MT		(0) 2		9 (1)

（審・松田 青木）

（注）全日本学生・川井は東女体大

姉が決めたあと、また得点がなく試合は進む。両チームともサイドシュート、ミドルシュートをはなつが、どうしても得点できない。シュート数はビクターが多いが、学生も永田を中心にして良く対抗した。19分になって、ようやく八重樫が決め、2—0、この頃から全日本学生の速攻が何本か出て、会場を湧かせたが、これが成功せず、逆に24分ビクターの阿部が決め、3—0で前半を終了した。

後半に入るとすぐ、ビクターは28分に7MTを江川が決め、4—0と大勢を決めた。すぐ29分に学生は福田が初得点。

しかし、ビクターはこのあと29分30秒阿保、30分30秒蓮見と得点を重ねていった。

一方学生はシュートは打つが、決定力に欠けているため、そのあとは36分に小貫があげた1点のみ結局50分に2点という得点しかあげることしかできなかった。この間、ノーマークミス、ラインクロスと基本的なミスをくり返して、貧攻のまま試合を終らしてしまった。

両チームの力の差は全くどうすることもできなかった。

（徳前）

大洋・大崎の反撃かわす

大洋デパート 13（7—3 6—6）9 大崎電気

	【大崎】	得	【大洋】	得
GK	小堀	0	小原	0
GK	和田	0		
FP	木幡	2	垂水	4
FP	長谷川	0	米	0
FP	新島	0	渡辺	5
FP	真田	1	三宅	0
FP	寺尾	2	島田	3
FP	三浦	3	枝尾	1
FP	佐藤	1	小林	0
FP	岩井	0	蔵田	0
FP			植原	0
FP			村中	0
7MT		(1) 9		13 (2)

（審・山内 斉藤）

前半、どの試合にも見られることだが、立ち上りのおそい大洋は大崎のテンポの早い攻め、ディフェンスのツメの早さにいささか調子が狂い、先取点は十分に左腕渡辺があげたが、大崎にリードを奪われた。大崎は三浦が5分に、続いて寺尾が7MTを決めるなどして、好調の試合運び。

大崎ペースのまま、15分までは3—3と大崎は三浦—木幡を中心としたキビキビした動きで良く大洋に対抗した。

しかし、大崎の健闘も前半は16分まで、大洋は17分渡辺、17分垂水に7MT、20分再び垂水、23分には島田とたて続けに得点を重ね一気に7—3と4点差をつけてしまった。

後半に入ると余裕の出た大洋はのびのびと試合を進め、垂水、枝尾の好リードから、渡辺、島田らに打たせ、35分には、11—4と大差をつけてしまった。

ここで大洋は期待の若手、村中蔵田らを入れ、余裕のあるところを見せたが、ここで攻撃も守備もコンビが微妙にくいちがうためか何かチグハグで、攻めもいいところまで行きながら、決定できなかった。

このスキに乗じて、大崎は懸命に反撃した。39分から、45分までの6分間に、木幡、寺尾、三浦を中心にした攻撃で、カットインを主体に攻め、連続5得点をあげ、11—9と2点差につめよった。

しかし、ここでベストメンバーにかえた大洋は46分島田が、49分に枝尾がフリースローをごろ快に決め、粘る大崎の攻撃をベストメンバーによるガッチリした守備陣で喰いとめ、懸命に粘る大崎をつきはなした。

迫力のある好ゲームであった。

昨日に引きつづき、必死に追いあげた大崎のファイトは高く賞してよかろう。

（大塚）

全日本学生食いさがる

大崎電気 12（4—3 8—4）7 全日本学生選抜軍

	【大崎】	得	【全学】	得
GK	和田	0	坂野	0
GK	小堀	0	松田	0
FP	木幡	1	高嶋	0
FP	新島	0	永田	2
FP	寺尾	4	福田	0
FP	三浦	7	小貫	2
FP	真田	0	嶋田	2
FP	長谷川	0	堀江	0
FP	佐藤	0	川井	0
FP	岩井	0	水上	0
FP			中本	0
FP			安田	1
7MT		(3) 12		7 (2)

（審・岡村 青木）

前半、大崎電気はいつものスピード感あふれる攻撃が見られず単調なシュートのくり返しで終り、ここで一勝をあげようとする全日本学生必死の攻撃に苦戦した。

全日本学生は立上り7分、8分と同じフォーメーションで左腕福田が左サイドよりGKの足元をつくきれいなシュートを決めまず2—0と快調なスタートを切った。

しかし個人技に優る大崎は12分三浦のきれいなフェントで中央突破で1点を返す。続いて14分には学生ディフェンスの乱れをつき、寺尾—木幡のきれいなコンビで木幡がポストシュートを決め同点。しかし16分学生はフリースローより安田があざやかに決め再び優位に立つ。調子の出ない大崎は18分寺尾24分三浦と個人技で決め4—3とやっと大崎リードで前半を終了

後半に入るとさすがに大崎は学生の動きをよく封じ、持ち前の速い動きが出るようになり三浦の大活躍によりやっと主導権をにぎり必死にくいさがる学生を12—7と振り切った。しかし内容的にはあまり見るべきものがなく大崎三浦の好プレーのみ光った試合であった。

結局学生選抜はついに一勝もあげることができずにおわった。

（大塚）

日本ビクター健斗及ばず

大洋デパート 6（4—2 2—2）4 日本ビクター

	【ビク】	得	【大洋】	得
GK	吉田	0	小原	0
FP	蓮見姉	0	垂水	2
FP	江川	2	米	2
FP	八重樫	1	渡辺	1
FP	阿保	1	三宅	0
FP	阿部	0	島田	0
FP	蓮見妹	0	枝尾	1
FP	大塚	0	小林	0
FP	滝	0	村中	0
FP			植原	0
FP			蔵田	0
7MT		(0) 4		6 (0)

（審・徳前 松田）

決勝の一戦。

互いに相手の出方をうかがううち、大洋は三度めに迎えたチャンスを4分30秒に枝尾がものにしたが、両チームとも今一歩の冴えが見られず、両チームともなかなかシュートが出来ない。

ビクターは8分、大洋GKのちょっとしたミスで好運な得点をあげたが、以後シュートはうつが、大洋のディフェンス陣がつめているので、良い状態でシュートがうてないので、いずれもキーパーにとめられるか、はずれるかしてしまう。

大洋にも一つ冴えが見られない

が、9分米がポストから、16分には垂水が決め、22分渡辺と着々加点し、4—1と開く。ビクターは23分に江川が決め、2点差に迫ったところでハーフタイム。
　後半のスタートは両チームとももたつき、なかなかシュートに結びつかない。
　数少ないチャンスを大洋は29分に米が、31分30秒にビクターは阿保がものにして、相変らず2点差が続く。
　この頃から、奮起したビクターは良く走り、守ってはGK吉田の好守もあり、そこからのチャンスをつかみ大洋ゴールをしばしばおそったが、シュートに決定力がなく、ようやく、39分江川のシュートで5—4と1点差に迫ったが、その後も同点のチャンスがあったが、ものにできないうちに、41分垂水に飛びこまれ、決められてしまった。
　大洋はシュートミスが多く、渡辺の豪快なシュートも見られず、あまり良い所が見られなかった。
　一方ビクターは惜しいチャンスを何度も逃がし、ついにリードすることができずに試合が終った。
　ビクターのGK吉田の活躍が特に眼についた。
　得点差の割には、白熱した内容に乏しかった。
（斉藤）

得点五傑
（本誌調査）

男子

①	高橋　益夫	（ワクナガ）	14
②	北井　晴次	（埼玉教員）	13
②	斉藤　光男	（日 体 大）	13
④	早川　清孝	（ワクナガ）	11
④	近藤　信行	（大崎電気）	11
④	飯田　試行	（大崎電気）	11

女子

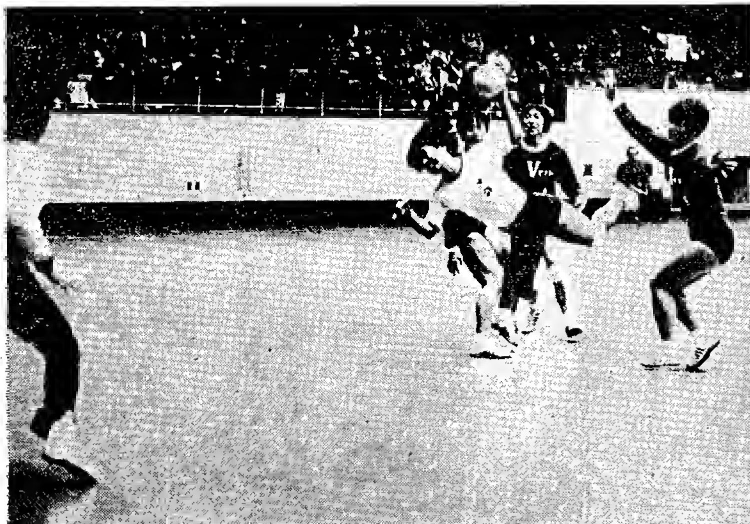
①	三浦　朝子	（大崎電気）	15
②	渡辺須和子	（大　　洋）	14
③	垂水　秀代	（大　　洋）	12
④	寺尾由美子	（大崎電気）	8
⑤	蓮見二三恵	（ビクター）	7



日本ビクター—全日本学生選抜



大洋デパート—大崎電気



大洋デパート—日本ビクター

全日本選抜を顧みて

荒川清美（談）
（日本協会理事長）

選抜された四強による激突というキャッチフレーズにふさわしくすべての面で盛りあがりのある佳い大会であった。

男子では、有力視された大崎電気、ワクナガ薬品の社会人二強に対して、日体大が学生らしい徹底したスピード攻法で挑みみごと優勝を飾ったのは賞讃されてよいだろう。

近年、日本に限らずハンドボール界の傾向は、セットオフェンスからのフォーメーションによる攻防が主流となり、より高度で巧ちなボールゲームへとその姿を変えつつあるがやはり基盤に流れるべきはスピードであり、ダイナミックな動きでなければならない。

日体大は全日本学生選手権（11月・大阪）をはさんで、この大会に備え、改めて脚力、スピードの養成を心がけたといわれるが、その成果が、他チームを圧倒する〝迫力〟に結晶したのだろうと思う。

多彩なセットオフェンスからの変化も、スピードを伴ってこそその真の展開があり、日本チームが世界の上位へ進出する突破口でもあるハズだ。

いたずらに技巧のみに走ることがないよう基本であるスピードを忘れないように特に、若いプレイヤー諸君にアドバイスしたい。

大崎電気、ワクナガ薬品それに埼玉教員クはそれぞれ持ち味を充分に発揮した。最終戦で埼玉教員が日体大を苦戦へ押しこむなど各チームともベテラン揃いらしい試合ぶりだった。試合展開力では日体大を上廻り乍らスピードで一歩も二歩もゆずっていたことは今後の研究課題として残ろう。

ワクナガの充実は、久々に大阪にビッグチームが生まれたという点でも今年の球界の大きなニュースといってよい。

私は一地域に最低一チームの全国的強豪が散在することを念願としているが、名古屋で大同製鋼の躍進が伝えられ、東京・名古屋・大阪の三大拠点に強チームが揃うことになってきたのはたのもしい

試合を離れて、今大会はオリンピック候補諸君（編集部注・この大会には10人の候補選手が登場した）のプレーぶりが大いに注目された。

相手チームのプレイヤーの候補に対する〝意識〟もいちだんと強いものがあった。

日体大対ワクナガ戦で木野（ワクナガ）が日体大の高橋に60分間徹底してマーク（アサインド・マン・ツウ・マン）され完封同然だったのをはじめ、各選手の動きはその〝意識〟をふり払うだけの覇気に乏しかったと感じたのは私だけであろうか。

警戒されればされるほど斗志にあふれたプレーで相手の壁を突き破って欲しい。

ナショナルプレイヤーは国際試合の時だけ燃えるのではなく、つねに気迫のこもった攻守で後進への範を示してもらいたい。

あまりよい引用ではないが、グルイア（ルーマニア）も、シュミット（西ドイツ）も国内試合でさえも試合後はつねに傷だらけだという。

激しいマークをのりこえて、なお自分の力を100%発揮できる執念こそナショナルプレイヤーに不可欠な条件であり、資格なのだ。

ナショナルチームの選手ともなれば、しかもチャンスメーカー、ポイントゲッターともなれば、マークされて当り前である。それをのりこえる。何とかふりはらうことに更に一層の進歩があり、守るほうではそれをどう守りぬくか研究する。このような切磋琢磨こそ技術の向上、ハンドボールの発展につながるので常に厳しさが要求されよう、そして気力執念が要求される。

女子は予想どおり大洋デパートの優勝に終った。すばらしいフットワーク、スピード、変化に富んだゴール前の動き。文句なしの勝利であり、追われる立ち場にありながら、なお余裕を示すこのチームへ敬意を表したい。

もう三年近くも全国大会に出場すればすべて優勝という大偉業をなしとげている。従来も愛知紡のような例があるが、今回の大洋の場合には、実力がきわめて接近している相手をたおしての連覇につぐ連覇である。昨年の本大会初日大崎に敗れ、優勝危うしの声もあがったが、見事にそのピンチをのりこえて優勝を飾った。そして本年、下り坂にかかっていると声をききながらも全く危気なく三試合をのりきった。

選手もベンチも自信に溢れている。この自信をとられても慌てずにじっくりとりかえす自信を全日本に選ばれた諸君がもってほしいそれをもってオランダにいってほしいものだ。世界を相手に全日本女子が好成績を納めるであろう期待のもてる試合ぶりであった。

他の3チームがわずかながら大洋との差をせばめて来たのは喜んでよいだろう。

特に日本ビクターが第3戦で見せた粘りや、大崎電気が堂々正攻法で挑んだ気力は、今後に大きな楽しみを残した。

また、この種大会に初めて出場の全日本学生選抜軍が、善戦したのもうれしい。

学生軍の推せんについては、協会内部でも賛否両論があったのだが、各選手の力にあふれたプレーは懸念を吹きとばし、学生界の位置を一段と高めさせたといってもいい。

運営面でも初日から多くの観衆が集まり、3日間で有料入場者約七千人を会場へ誘い得たのは収獲である。

また、参加選手へ保険がかけられたのも特筆すべきことだ、いずれも主管・東京協会の労苦によるもので深く感謝したい。

競技の進行も手際よく運んだがオリンピック予選を引きうけるには、選手の入退場時のよい意味での演出や、場内放送者の育成など考案すべき問題もある。

来年度からは、この大会は上半期に日程を移し〝内容〟も若干替えられることになろう。

「よい試合を大観衆の前で」という目標を追っていっそうの発展を皆さんとともに期待したい。

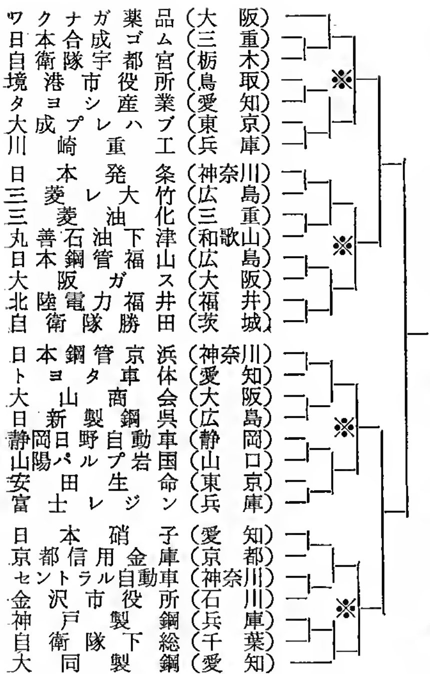
ワクナガ、大同の有利動かず

～全国実業団トーナメント～

「リーグ出場」目ざし熱戦必至

昭和45年度全国実業団トーナメント（男子のみ）は2月7日から10日まで名古屋市の愛知県体育館を主会場にして行われる。

この大会の上位チーム（組合せ表の※印勝者）は3月3日から横浜で開かれる第11回全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）への出場権を得る。組合せから有力チームを探ってみよう。（編集部）



この大会（トーナメント）は昨年は上位リーグと同時開催だったが、今年から別々に実施されることになった。

準決勝進出の4チームはすでに決定しているベストエイト（大崎電気、三景、常盤工業、住友化学菊本、日進商会、新日本製鉄名古屋、宗形製作所、本田技研）と合流して、3月2日から横浜で今年の全日本実業団チャンピオンを争うわけである。

メインタイトルは一ケ月後のリーグ戦にかけられるため、どうしても〝2部〟的に見られ勝ちだが、出場チームはいずれもリーグ戦参加へ意欲を燃やしており、熱戦が期待できそうだ。

特にワクナガ薬品（大阪）と大同製鋼（愛知）の出場は、この大会をグンと引きしめたものにしている。

両チームとも今シーズンめきめき力をつけ、国内最上位の実力を備えてきている。

ワクナガは、木野、早川の両オリンピック候補を攻守の要に市原高橋、森、戸田、GK今井と国内の第一線級を揃え、藤井、松井、久保ら若手の進境もいちぢるしい。

国体優勝、全日本総合、全日本選抜準優勝の実績からみて優勝最有力である。

大同も充実している。野田、藤中の両オリンピック候補が攻撃の中心で加藤、西村、戸谷、GK柳川らスキがない。国体では全愛知の主力を占めたが決勝でワクナガに10－15と敗れており、野田らは「ホームコートで借りを返す」と張り切っている。

両者が決勝で対決することはまずまちがいないところでリーグ出場へ残る二つの座をどこが狙うかが次の興味だ。

丸善石油（和歌山）、自衛隊勝田（茨城）、大山商会（大阪）、日新製鋼呉（広島）、山陽パルプ（山口）、富士レジン（兵庫）あたりが有力とみられるが、実力伯仲だけに予断は許さない。

大山～日新は1回戦屈指の好カード。大山は奥川、中村、佐藤らを中心に堅実な試合運びで11月の近畿実業団では2位になった。

日新も成長している。下茂の巧技を軸に松本、吹上ら鋭い攻撃力を誇る。

来年に国体を控える丸善は堤本辻井、刀弥らが主力。自衛隊勝田は調子の波にのると侮れない。

日本発条（神奈川）、も全日本実業団選手権出場の最有力候補の一つである。三菱レ大竹（広島）、日本鋼管福山（広島）、安田生命（東京）らが上位をめざしている。

リーグ復帰を狙う日本鋼管京浜（神奈川）の巻き返しも一つの焦点だろう。

自衛隊宇都宮（栃木）、セントラル自動車（神奈川）京都信用金庫（京都）の評判も高いがワクナガ、大同の壁を突き破ることは難しいのではなかろうか。

関東、東海、北陸、近畿、中四国の各地から三十チームが参加し熱戦が展開されることが期待される。しかも、これに好成績を残せば、3月に全日本のトップの座をめざすことができるのであるから更なる斗志をかきたてることになろう。このように新興チームでも一年でトップの座にすわることができる点が、このシステムの良い点であろう。

（S・F）

白花醸造が（韓国女子実業団）来日

―初の韓国女子チーム―

史上二度目の女子チーム訪日

全日本実連ではこのほど初の日韓女子交流の日程を次のように決め発表した。

来日するのは実業団〝白花醸造〟チーム。

これは11月に全愛媛チームと共に訪韓した実連田中滋章理事長が日韓女子、交流を熱望する韓国側の意向を汲み、まず実業団の交流を実現することにしたもの。今後大学チーム、高校チームの女子の交流も実現することになっていこう。

韓国女子との交流は全部門を通じて初めてのこと。

〝白花醸造〟チームは2月14日羽田につき、東京→水戸→東京→名古屋→四日市→名古屋→京都→大阪→松山→大阪という旅程で日本訪問をする予定。帰国は23日に大阪からの予定である。この間10日間で別表のように五試合を行なう予定にしている。

このような形で日韓交流および他国との交流が盛んになるにつれて従来の交流方式を再検討しなければならない時期にきていよう。費用とか開催能力が不足しているとかいうような交流ということから云えばささいな理由でせっかくのチャンスをフイにすることのないように日頃からそのようなものに対処できるような機構を各地に作りあげておく必要があろう。

外国女子チームの来日は昭和43年秋の西ドイツ選抜以来で史上2度目。

日本側もすべて社会人が対戦（全5試合）するが韓国の女子も高レベルといわれるだけに好試合が期待されよう。

〝白花醸造〟チームについては全くその力は判らないが、高校出の若手の選手が主体となっているとのことであり発展途上の韓国女子球界の実力を知るには絶好の機会となろう。世界においても注目されている日本の女子球界が今後世界選手権などへの出場権をめぐって対戦をよぎなくされるであろう韓国球界の動きには常に注目していかなければなるまい。国際試合をしようとしても近隣に対戦相手に恵まれなかった我が国としてもっと真剣に日韓交流というものを根本的に再検討していく必要もあろう。

従来はどちらかというと受身であり韓国の提案にのっていくという形をとっていたが、むしろ今後は日韓戦をどのように日本としては考えていくかもっと積極的に押し進めていく必要もあろう。

女子のはじめての来日を機会にもう一度それぞれの分野で考えなおすべきであろう。

白花醸造株式会社ハンドボール選手団

		年令	
団長	姜正俊 KAMG JUNG JOON	57	社長
監督	李昌埈 LEE CHANG JOON	36	総務部長
総務	李暎埈 LEE YUNG JOON	34	経理部長
コーチ	金栄佑 KIM YONG U	31	
選手	金智現 KIM JI HYUNG	21	社員
〃	鄭順福 JUNG SOON BOK	21	〃
〃	黄月暎 HWANG WUL YUNG	19	〃
〃	李鉉順 LEE HWUN SOON	20	〃
〃	崔承美 CHOI SUNG MI	19	〃
〃	李英淑 LEE YONG SOOK	19	〃
〃	朴光子 PARK KWANG JA	18	〃
〃	李徳子 LEE DEUK JA	18	〃
〃	権美子 KWUN MI JA	18	〃
〃	俞慶淑 YOO KYONG SOOK	18	〃
〃	高善竜 KO SUN YONG	18	〃
〃	李太姙 LEE TAI IM	18	〃
〃	安庚季 AN KYUNG SOOK	18	〃

日程

▽第1戦　2月15日　対大崎電気（東京体育館）
▽第2戦　2月16日　対日本ビクター（水海道二高）
▽第3戦　2月18日　対田村紡（四日市体育館）
▽第4戦　2月19日　対ブラザー工業（愛知県体育館）
▽第5戦　2月22日　対新居浜クラブ



韓国球界の印象

松井英喜
（住友化学菊本監督）

「伊予の山猿韓国に遠征」。正に我々チームにとっては瓢箪から駒の韓国遠征であった。

遠征が決ってから、がむしゃらに練習にしたつもりではあったが初めての海外遠征の事、不安と期待を胸に伊丹を飛びたった。

試合は釜山での第一試合だけアウトドアで行なったが、他の四試合はインドアであった。

どの会場も満員の観衆で埋まり特に光州とソウルでは五千人位は入っていたのではないかと思われる。各地とも我々の試合の前に高校生の試合が行なわれたという事もあってか観客のほとんどが学生でその応援は日本の高校野球を思わせる熱狂ぶりで韓国の国民意識とハンドボールの底辺の広がりを感じた。

体育館はどこも正規のコートを採れるところがなく、各会場とも巾一九～二〇米、長さ三二～三五米で、現在の日本の試合では強力な武器となるワンパスでの速攻が使えずちょっととまどった。

又電力事情が悪いためか、照明も充分でなく、特に第二試合を行った光州室内体育館は暗くて、試合開始後一〇分間位ゴールキーパーがボールのスピード感に慣れず不本意な点を与えてしまったのは残念であった。なおミュンヘンオリンピックのアジア予選までには国際級の体育館を建てる計画だとの事である。

どんなスポーツに於ても当然の事であるがレフリーのフェアーな判定には感心した。ただソウルでの試合の後半首をかしげるような判定がいくどか見られ、国民感情としてやむをえないとは思うが、他の試合がフェアーであっただけに残念であった。

韓国ではドイツからコーチを招き選手、審判ともにコーチを受けルールの解釈、審判の技術もヨー

日韓社会人成績
（全5戦）

釜山旅客自動車	12	6—4	6—6	10	愛媛ク
高麗セメント	13	8—4	5—5	9	愛媛ク
愛媛ク	10	6—3	4—6	9	高麗木材
愛媛ク	20	9—7	11—10	17	東洋公社
麻浦ク	22	10—9	12—8	17	愛媛ク

ロッパに合わせたという事で、五試合とも試合運び、選手の個性等似通っており、又審判については判定基準の統一とかなり徹底した講習会、合宿等を行っている様である。

韓国ではハンドボールを国民のスポーツとして普及させるよう努力しているそうでその熱意もずい所に伺われた。特に韓国の全小学校にハンドボールのゴールポストがあるとの事で数年先には必ず日本をおびやかす存在となる事は間違いない様思われた。

日本でも小学校、中学校を通じ底辺の拡大を一日も早く手がけないと韓国に追い越される様な事にもなりかねないのではなかろうか

慶州の古寺秘苑の遊園、南山からのソウルの展望と今思えば楽しい想いでいっぱいであるが、歓迎ぜめ、強行スケジュールと外国へ遠征した以上は相手のペースに乗らざるを得ないため、中には試合の出来るコンディションではない状態で試合した事もあり、海外遠征のむつかしさと勝つ事のむつかしさを改めて感じた。

最後に我々にこういうチャンスを与えて下さった方々にお礼申し上げると共に、御声援に感謝致します。

厳格で公平な審判員

上田　猛
（住友化学菊本コーチ）

今回社会人チームとして初の日韓交流に参加し各地を転戦しながら試合を行った。

各試合を通じて韓国ハンドボール界の印象、特に審判面での印象をまとめてみたい。

出発前に色々な話を聞き、又プロボクシング等に於ても外国で試合する時はノックアウト以外には勝てない等、審判面では相当なかくごでかけた。

特に我々のチームの得意とするブロックプレー。又ポストでのライン ぎりぎりのたおれこみシュートとどれをとっても審判のとり方一つで反則をとられるきわどいものが多いだけにへたをすると加藤、北山のロングのみで勝負しなければならないのでは……等不安はつのるばかりであった。

しかし、第一戦を戦ってみてすべての不安は取り越し苦労であった事がわかり安心した。すなわちアドバンテージの取り方を除き、日本の判定と何ら変わらなかった

一番のとまどいを感じたのはアドバンテージのとり方であった。これについて少々述べると韓国の選手はボールに対するしゅう着心が強く、我々が執ように当っても、とにかくボールだけは離さず、ちょっと気を抜くとどこからでもパスを通す。これが一つの戦法となっているためか、とにかく徹底したアドバンテージをとっていた。

我々がディフェンスの時勝手にこれは反則をとられたと判断し、気をゆるめると素速くシュートされかなりの点をとられた。

次にオーバーステップのとり方であるが、忠実に三歩でふいていた。これは日本の審判はシューターに対しては甘くふいている様な事がしばしば見受られるが、韓国の審判はどういう状態でも忠実でありこういう点は日本の審判は見習う点もあると思う。

しかしこのルールに忠実であるという事がキーパーボールを前のオフェンスの反則まで返してボールを止めたり、その他必要以上にボールを止めハンドボールの面白さであるスピード感を損う結果ともなっていた様に思うがここらが審判技術のむつかしさであろう。

我々が一番心配していたブロックプレーについては韓国ではあまり使っていないせいかあまりとられる事はなかった。といってもタイミングがはずれ、ブロックする時間がちょっとでも長くなるとやはり反則をとっていたのは良く見ているしょうこであろう。

審判のジェスチャーはドイツ流とかで大きなジェスチャーで判り良く試合をスムースに進めるためには大いに役立っている様だ。

ジェスチャーで一番面喰ったのは、審判がしょっちゅうにゆとりを追う様なジェスチャーで手を動かしていた事だ、これは最初のうちはストーリングをとられるのかと感違いしあわてたが、後で聞いてみると反則すれすれのきわどいプレーがあった時反則ではないから攻めろというあいずとの事であった。

たしかに出発前に心配していた様な不本意な判定もあったが、全般を通じて言える事はフェアであり、又判定の基準が統一されていた様に思え、ドイツからコーチを招き、指導を受けたとの事であるが短期間でこれだけマスター出来るという事は、韓国ハンドボール界の意気込みというか、熱意を感じさせられるものがある。

以上せっかくの日本代表として遠征しながら自分のチームのプレーに一生県命で充分相手のプレー審判を研究する事ができず、御役に立てなく申しわけなく思っておりますが、韓国ハンドボール界の印象につい思いつくまま書いてみた次第です。

韓国社会人と対戦して

加藤久勝

（住友化学菊本主将・FP）

今回、私達住友化学のメンバーが、実業団連盟の推薦を受けて愛媛クラブを編成、日韓初の社会人ハンドボール親善試合に参加する機会を得、11月8日から11日間韓国の遠征し、釜山を始め、光州全州、ソウルで計5試合行ってきた

戦績は、2勝3敗と敗越してはきたが、私達のチームにとっては始めての海外遠征であり又、観客席を埋めつくした大観衆の激い声援によってかなりあがったり、旅行疲れや、練習不足、韓国での練習時間は少なかった等によって堅さがとれなくボールが手に着かなかったり、不安と緊張の中で戦った5試合が非常に貴重な体験となり、試合に対する技術的な面だけでなく多くのものを教えられた。

今回の試合から得た韓国社会人チームの印象について思うままに書いてみたい。韓国実業団はまだ連盟設立以前の段階であり、男子8チーム、女子1チーム（今年来日予定）しか無い。その様な関係か我々が対戦したチームのメンバーには、また在学中であったり卒業間もない選手が多く、社会人チームというより、韓国学生の印象といっても過言では無い。又、対戦チームの中には、ほとんど1・2名のナショナルメンバー又はジュニアーが出場しており、やはり彼らは、技術的、体力的にかなりの実力を持っていると思う。

全体を通じていえることは、どの選手も基礎プレーに忠実であり特にポストでのキャッチはどのチームでも非常に良かった点である特に秀れた個人プレーや、フォーメーションプレーを見ることはできなかったが、韓国チームは、平均年令が22才程度と非常に若く、又、体力的に秀れており（平均身長175cm程度、体重70kg前後）常に私達を圧倒し続けた。特に彼らの粘り強さには、まったく頭の下がる思いをした。

我々のチームが得点されたものの多くは、早い動きのクロスプレーから、非常に早いタイミングでスナップのきいたロングシュートを打たれた場合であったが、少し詰が遅れると決められてしまった又、秀れたジャンプ力を活かした「スカイ・フライングプレー」が多く、サイドからのジャンプは、日本の選手では見られないものがあった。更にサイドシュートで、日本の野田選手が行うのと同様なプレーをサイド1m程度からエリア内へ深くジャンプして決めたシュートは見事であった。一般にサイドからの攻めが多く見られた。

ディフェンスに関しては、その多くが1・5であり、シュートを上に打たせる守りをしていた。そのせいか我々のチームの得意とするポストプレーを活かすことができず、得点の多くはロングシュートであった。当りは非常に激しく遠征中、打撲傷が絶えなかった。

ゴールキーパーに関しては、特に秀れた選手を見ることはできなかったが、やはりジャンプ力に秀れているせいか上部はかなりの確率で止めていた。一般に下部が弱く、シューターに対し飛び出すキーパーも見られなかった。そのせいか住化のキーパー藤田の飛び出すプレーが非常に当り、大分助けられたしだいである。

今回の遠征を通じ、韓国チームの粘り強さ勝負への厳しさ等、多くの事を知り、今後の私達のチームにとって多大な収獲となった。

終りに、同行され、はげまして下さった荒川日本協会理事長並びに田中実連理事長に対し厚く御礼申し上げます。

3月6日に新役員選出

日本協会は今春に役員の改選期を迎えているが、新旧の引きつぎをスムーズに運ぶため、新年度の全国会議日程などを次のように決めた。

新役員（昭和46・47年度）による初の全国理事会を3月6日東京・体協会議室に招集、理事長以下の新執行部を選出、事業予算を確定する新スタッフ（専門部長）は3月中に専門委員の人選を行い、遅くとも4月第2週（4日〜10日）には一斉に活動を始める。

全国評議員会は規約に定められている2月開催を延ばし3月7日東京・体協会議室で行われる。2月19日からアジア三国会議が実施されるため変更となったものである。

なお、新年度は機構の手なおしは行われない模様だが、オリンピック予選実施の場合は、4月中に組織委員会が編成され会長または理事長直轄の機関となる予定。

杉山常務理事が辞表提出

総務企画面を担当していた日本協会杉山茂常務理事は勤務先の都合で任期切れを前に12月31日付で辞表を提出し、田村会長が預ることになった。

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

――杉山　茂――

12月に入ってヨーロッパ球界はにわかにナショナルチームの対戦や国際トーナメントが多くなった。

今シーズンの特色は、オリンピック出場を決めた国（注・昨春の世界選手権上位8ケ国）と、これから予選をむかえる国の〝目標〟が区別されていることだろう。

出場決定国は早くも照準をオリンピック・メダルにあてて対戦ごとにすさまじい試合を展開、予選組はなんとかミュンヘンへの道を開こうと互いにかけ引きをみせているのだ。

いくつかの動向をピックアップしてみよう。

ルーマニア、東独に敗るも優勝　……カルパティア杯

今シーズン最高の大会と、ファンや関係者から注目された第11回カルパティア・カップは11月21日から5日間クルジュ（ルーマニア）で開かれた。

参加したのは世界のトップスリーにソビエト、ハンガリーの5ケ国6チームという豪華版。連日五千近い観衆を集め熱戦を演じた末ルーマニアが東独に苦杯を喫しながら優勝、2位東独、3位ユーゴと世界選手権と同順位で終った。

ルーマニア　18（9－4　9－6）10　ルーマニアB
ソビエト　23（12－7　11－15）22　ハンガリー
ユーゴ　12（5－8　7－3）11　東ドイツ
ユーゴ　14（7－5　7－8）13　ルーマニアB
ルーマニア　18（8－5　10－6）11　ソビエト
東ドイツ　19（8－10　11－8）18　ハンガリー
ルーマニア　17（7－6　10－9）15　ハンガリー
ソビエト　13（6－6　7－7）13　ユーゴ
引き分け
東ドイツ　14（7－7　7－6）13　ルーマニアB
ルーマニアB　17（6－8　11－8）16　ハンガリー
東ドイツ　15（7－9　8－6）15　ソビエト
引き分け
ルーマニア　11（5－5　6－5）10　ユーゴ
ユーゴ　21（11－13　10－8）21　ハンガリー
引き分け
ルーマニアB　18（9－9　9－6）15　ソビエト
東ドイツ　13（9－3　4－3）6　ルーマニア

【順位】①ルーマニア4勝1敗②東ドイツ3勝1敗1分③ユーゴ2勝1敗2分④ルーマニアB2勝3敗⑤ソビエト1勝2敗2分⑥ハンガリー4敗1分

東独、ルーマニアに連勝

ベルリン国際大会

カルパティア・カップにおける激戦の余いんは12月3日から行われたベルリン国際トーナメント（7ケ国8チーム参加）にも引きつがれ、東ドイツ―ルーマニアが再び対決、東ドイツは後半一気に勝負を決める快攻を見せ連勝した。

▽予選リーグA組
東ドイツ　30－12　オーストリア
ハンガリー　20－17　チェコ
東ドイツ　18－15　ハンガリー
チェコ　31－7　オーストリア
東ドイツ　17－12　チェコ
ハンガリー　26－20　オーストリア

▽同B組
ルーマニア　18－12　ポーランド
ソビエト　18－14　東ドイツB
ポーランド　10－9　ソビエト
ルーマニア　18－14　東ドイツB
ルーマニア　17－16　ソビエト
東ドイツB　16－13　ポーランド

▽決勝トーナメント（準決勝）
東ドイツ　22（9－5　13－4）9　ソビエト
ルーマニア　22（12－8　10－7）15　ハンガリー

▽3位決定戦
ソビエト　16（分）16　ハンガリー

▽決勝戦
東ドイツ　16（5－5　11－7）12　ルーマニア

注目されるスイスの熱意

有力国同士の激突とは趣きをかえて、いわゆるBクラス同士の交流も活潑だ。

なかでもスイスの積極的な強化策は注目されるものがある。

わずかの期間に

スイス　12－11　オランダ
スイス　13（分）13　オランダ
デンマーク　20－15　スイス
スイス　17－11　ノルウェー
スイス　18－15　フィンランド

の5試合を行い、このほか1月末までにスウェーデン、フランスなどとの対戦を予定しているという。

バウマンIHF会長の母国だけになんとかオリンピック出場をというスイスの熱意はなみなみならぬものだ。

ルクセンブルグ勝つ　イギリス登場

ルクセンブルグ協会創立25周年記念国際トーナメントは12月19、20日に行われ、ルクセンブルグはみごと優勝を飾った。イギリスが初登場し話題をまいた。

▽1回戦（＝準決勝）

ベルギー	37（24—5, 13—4）9	イギリス
ルクセンブルグ	31（18—14, 13—8）22	イタリア

▽3位決定戦

イタリア	19—8	イギリス

▽決勝

ルクセンブルグ	26（14—10, 7—11, 1—0, 4—2）23	ベルギー

カナダチーム久々に訪欧

一九六七年の世界選手権以来ヨーロッパに姿を見せなかったカナダチームが12月中旬から久々に訪欧している。

モントリオール選抜軍でサベージ、ルシエール、シャレボワ、ジエニール、アラルド、グレットらカナダ・ナショナルのメンバーが中心。フランス、西ドイツ、オランダなどを転戦した。

ヨーロッパのスポーツライターたちは、「カナダは早くも一九七六年のモントリオール・オリンピックへの準備を始めた」と伝えている。

オランダ、意義ある優勝

フランスなどと五輪前哨戦

オリンピックといえば12月7日から3日間ユトレヒトで開かれたオランダ国際トーナメントも興味のある大会だった。

というのは参加した4ケ国のうちフランス、オランダ、オーストリアの3国は47年3月スペインで行われるオリンピック・ヨーロッパ予選B組で対戦することがすでに決まっているからだ。

成績は予想どおりオランダがロッフエン、キビトら新鋭の活躍で3戦全勝で優勝した。

重大な予選を前にして得た自信はオランダにとってかけがえのない〝収獲〟といえる。

フランス	18—16	フィンランド
オランダ	23—15	オーストリア
フィンランド	14—13	オーストリア
オランダ	12—9	フランス
フランス	17—11	オーストリア
オランダ	13—11	フィンランド

【順位】①オランダ②フランス③フィンランド④オーストリア

ヨーロッパカップの話題

恒例の男子第11回、女子第10回ヨーロッパ・カップトーナメントは、ヨーロッパ各国25のチャンピオン・チーム（単独）が参加して昨年10月12日のヘルラス（スウェーデン）対エレクトロモン（ハンガリー）戦を皮切りに今春4月の決勝戦まで6ケ月にわたる熱戦譜をつづっている。

男子は昨年内に2回戦が終り、ベスト・エイトが決められた。

これまでの試合で最大の話題は2回戦でVfL・グンメルスバッハとFA・ゲッピンゲンの西ドイツ同士が対戦したことだろう。

グンメルスバッハは前回の覇者ゲッピンゲンは西ドイツ選手権チームということで同国から2クラブが出場していたわけだが、抽せんで早くも顔を合わせてしまった。

第1戦は11月24日ドルトムントで一万人をこす大観衆を集めて行われ、グンメルスバッハのエースシユミットが相手選手を殴り倒して退場（5分間）を喰うなどエキサイトした展開となった。しかしシユミットの活躍はすさまじいものがあり相手の執ようなマークを振り切って12点（うち7MT2）を叩き出し、結局20—12でグンメルスバッハが先勝した。

第2戦は12月23日ゲッピンゲンで行われ（観衆約一万）、1点を争う激戦の末、13—12でグンメルスバッハが連勝、ベスト・4入りを決めた。第1戦が異常な興奮状態のなかでの試合だったため、第2戦には200人をこす警官が動員され警戒にあたっていた。

このほか、第9回の優勝チームステアウア・ブカレスト（ルーマニア）や第5回のチャンピオン・デュクラ・プラハ（チエコ）らも順当に準々決優へ進んでいるが、プラハは2回戦でデンマークの強豪・HGコペンハーゲンと接戦と演じた。スコアは第1戦20—13、第2戦19—16だった。

このデュクラ・プラハはその後準決勝に進んだがこれを棄権すると伝えられている。

ソビエトから参加のMAI・モスクワは1回戦でUES・リンツ（オーストリア）に圧勝したが、2回戦を前に棄権、リスボン・スポーツ・クラブ（ポルトガル）が労せず勝ちあがった。ソビエトの辞退理由は不明。

一方、女子は17クラブが参加して11月10日のUS・イブリイ（フランス）対FKSO・クラプコワ（ポーランド）戦で開幕、4月4日の決勝まで熱戦がつづくが前回の決勝で顔を合はせたスパタク・キエフ（ソビエト）、SC・ライプチヒ（東独）の両チームが今年も群を抜いて強いという評判である。

グンメルスバッハ訪問か

ヨーロッパ球界きっての名門グンメルスバッハ（西ドイツ）クラブは、今春4月頃、日本旅行をする計画があることを明きらかにしている。日本協会でも現在この問題を再検討中である。

中学校体育での体力〈講演〉

石井喜八
（大阪体育大学助教授
全日本教職員連盟理事）

昭和四十七年度から中学校保健体育の教材として、ハンドボール競技が採用されました。採用された過程をいろいろ聞いてみると、委員の中には中学校の段階で生徒の体力やスポーツ能力を高めるためにはオールラウンドな（全面的な）発達の要素をもり込む必要があるとして、球技という分類のところでは球技全般の学習に通ずるようなリードアップゲーム（簡易化された遊戯形式のゲーム）を多く採上げることが望ましいという意見もあったといわれます。教育者の立場から学校体育で扱われる教材というものを考えるときに、そのような考え方もあるなァと思います。

ところで私はハンドボール競技を高校の始めの頃からクラブで学び、現在もハンドボール競技の愛好者の一人でもあるので次のような学校体育の教材の選択もあると考えるのです。それは現場教師の指導目標の設定を容易にする、考え方の核を中心にして進展させるという意味で、既成のスポーツを教材として採用することも、また意味のあることだと考えるのです。例えばラジオやテレビの放送放映あるいは新聞の記事に掲載される社会事象の理解のために、そして体力を養成できる要素の大きいハンドボール競技を、国民教育（義務教育）の中で教えることは私達の愛好者の増加というためにも愉快なことだと思うのです。

ここに、社会体育を担当するハンドボール協会の立場と学校体育を担当する文部省の立場との接点があり、本講習会の成立の契機になったのだと考えます。

たくましい精神構造と身体を

ところでハンドボール競技のやり方やルールを学んだというだけでは私自身にとってやや不満が残るのです。競技者の楽しみは競技に酔い知れることであり、身体運動を思いきり行い、興奮状態に没頭することがそのような状態に入れることになるわけです。

時実時彦博士という大脳生理学者は酒、勝負、単調なリズムは睡眠以外の大脳皮質を休ませる手段であるといいます。これは洋の東西、古今を問わず人類が経験から見つけた知恵だといいます。原始人達にとってみれば一層はっきりする事柄なのです。

現代の生き方は環境はより文化的に、人間はより原始的に生きることが大切だというのが私の考え方です。高度に発達した社会とその中での人間関係、そこから生れる公害や精神構造の破綻に対処するにはたくましい身体と、たくましい精神構造が必要なのです。

大脳の機能について少しくわしく述べてみると、大きく三つに区分されます。これはヒトのことだけでなくて、脊椎動物全般に通じます。

一つは脳幹といわれ、またの名を延髄といわれるところ、次は人間の場合に極めて発達している大脳皮質（一般にノーミソといわれたくさんのしわの寄っているところ）、もう一つは脳幹と大脳皮質との中間に存在する間脳といわれる部分です。それぞれの部分の働きをもう少しくわしく述べてみますと、脳幹は反射の中枢の存在するところであり、呼吸や心臓の収縮、あるいは体液の状態を一定に保つ恒常作用など生命の維持のために存在する中枢で、どの脊椎動物にも発達しているところです。

大脳皮質は人間に大きく発達しているといえば人間の特徴は大脳皮質の働きにあるといえるでしょう。特に、知識とか、記憶とか、学習などという作業がここで行われるわけです。従って、教育といわれる中で狭い考え方の中にはここだけが対象となり、坐っていて出来るものだと考えている人がかなりあります。そのような人達は坐っていて機械が出来ると考えているのでしょうか。自分の身体が思うように動かせて始めて他人の身体を使うことが出来るのだし、共感もわいてくるものです。

情動脳と大脳皮質の調和

ところで、もう一つの部分、脳幹と大脳皮質の中間にある間脳は最近の大脳生理学のもっとも興味ある研究個所の一つなのです。動物のこの部分を刺激すると怒ったり、渇きの行動や本能的な快不快の行動を示すので、情動脳ともいわれています。スポーツ活動に結びつけて説明すれば若さをもてあましているとか、からだがはりつめたようになるとか、動きたい、あばれたい、思いきり走ってみたいという身体活動のエネルギーの発生場所なのです。ハンドボール競技を一度やったことのある人というよりも、接戦の中でシュートをし、ゴールインしたときの快感の忘れられない人達は大脳皮質で

の記憶とこの情動脳との結びつきの強い人であるわけです。
　生活への意欲、これを表現すれば勝ちたい、伝統を守りたい、記録に挑戦したい、友情を高めたい努力の目標を持ちたいというスポーツ場面の理由づけは行動を大脳皮質で受けとめたことに置換えたからであって、本来は情動脳で何かしたいということの理由づけでしかないのです。
　スポーツはこのような要素を持っているものですから情動脳をきたえることができます。従って、スポーツマンには意欲的な人、行動力のある人が多いわけです。ところが、情動脳だけを発達させてしまうと、蛮勇のある人とか、あるいは国体列車の中でのスポーツマン横暴ということにもなり、社会的な生活をするための抑制のできない人になってしまうわけです。社会的な生活のための抑制は大脳皮質の担当であるわけです。この情動脳と大脳皮質との調和のとれた働きこそ体育の目標であります。またこれこそが最大活動の原理原則でもあるわけです。

重要視される「体力」

　体力が重要視されていることは学校だけの問題ではありません。生涯体育という言葉が最近用いられておりますが、これは〇歳から一〇〇歳までの体育であり、乳幼児から中高年までの体育ということです。
　改訂される前の学校体育の目標にも、〝強健な心身を養い、体力の向上を図る〟とありましたが、〝6・3制実技の時間になると、野球ばかりが強くなり〟という川柳のように、スポーツ技術一辺倒の指導という感がありました。
　ところが、今回の指導要領では従来の徒手体操は体操といわれる区分となり、内容は体力に焦点をあてて実施するようにとなっております。
　ところで、体力とは何んなのかという問題です。薬屋さんの宣伝のように、マージャンが徹夜でできるようなスタミナを体力というように考える人達もいるようですが、体育で考える体力とは、一つのからだがなすことのできる仕事の能力という意味です。人間は生れてきたからには仕事をしなければなりません。仕事をするということはこの社会に参加する資格として必要なのです。その仕事をするには知能、知識も必要ですが、体力も必要なのです。
　福田邦三博士は体力の要素を考えました。別紙に掲げたような精神的要素をも組込んでいます。体力は身体的要素と精神的要素から成立つというのです。そして、それぞれには行動体力と防衛体力に区分できると考えるのです。行動体力とは外界（環境）に働きかけていく身体の能力です。これは身体作業能力とか、運動能力といわれるものです。防衛体力とは外界（環境）からの働きかけに対していかに身体を変調なく保つかという能力です。
　温度調節能力や免疫とか、ストレスに対する抵抗力というものです。
　私達はいま学校の中で行われる体育を考えてきました。ですから体力はスポーツ活動に役立つものと考えがちです。しかし、スポーツ活動で仕事をする人達はプロスポーツマンといわれる人達なのであって、体育で学び、培われたものは社会人となって役立つべきものだと思います。
　今回は学校体育の中での体力の位置づけをしたのだと思います。

施設・用具などのアンケート

　講習会席上、受講者から回答を求めた調査（アンケート）の結果をまとめてみよう。
　これは日頃ハンドボール指導をする際の施設、用具などについてのもので、その結果によって災害予防、傷害防止を考え、同時に一貫した指導法を生みだすためのデータとして参考にしようと考えたものである。
（渋谷行康）

△回答（収）率　75％
　注目されるのは回答のうちの約33％にあたる人が「学校に施設・用具がない」と答えたことだ。
　この一事ですべてを計れるわけではないが、現時点における中学校のハンドボールへの認識度があまり高くないと判断してよいと思う。

▽問1　現在使用しているボールはどのようなものか。（大きさと材質）
〔答〕Ⅰ大きさ　2号ボール……80％
　　　　　　　解答なし……20％
　　Ⅱ材質　皮……80％
　　　　　　ゴム……10％
　　　　　　解答なし……10％
〇……大きさでは2号ボール使用が圧倒的に多い。材質では皮製がこれまた高い数字を示し、ゴム製使用は予想外に少い。
　これはゴムボールに対する危険性及び取り扱いの困難さをあげることができる。
　しかし、そうした傾向とは反対にゴムボールを好んで使用しているところもあるのは注目していい。
　これは皮製が費用の面で問題が多いからではなかろうか。
　しかし、全般的な印象として今回の調査からすればゴムボールはその〝内容〟について一考を要す

るものと思われる。

▽問2　現在使用しているボールは指導上適当と考えられるか

〔答〕適当と考える……………40％
　学年により考えるべき…10％
　サイズを小さくしたほうがよい……………20％
　サイズを大きくしたほうがよい……………30％

○……2号ボール使用者に対しての調査であり、無条件で「よし」とするのは半数に満たない。

　サイズを大きくしたほうがよいとした者が30％もあるのは注目されよう。

　学年によってサイズを考えるべきだとした者は意外に少かった。

▽問3　現在使用しているゴールポストの材質はどのようなものか

〔答〕木　材……………30％
　鉄　……………40％
　解答なし……………30％

○……木材・鉄の差はわずか。半々の使用とみてよいだろう。プレーのスピード化、大型化はゴールポストの材質が微妙になってくるが、傷害との関連ということになるとそれを裏付けるようなデータや報告は今のところない。

▽問4　ゴールネットの材質はどんなものか

〔答〕綿　糸……………20％
　合成せん維……………40％
　金あみ……………10％
　解答なし……………30％

○……合成せん維編みのネットが普及したのを示すように綿糸の倍の数字が示された。

　金あみが10％あったのはむしろめずらしい報告といえよう。

▽問5　ゴールキーパーに手袋を用意してあるか。

〔答〕用意している……………60％
　用意していない……………10％
　解答なし……………30％

▽問6（前問で〝用意している〟と答えた人に対して）ゴールキーパーの手袋の材質は

〔答〕皮　製……………17％
　ゴムぬり……………17％
　〝軍手〟……………66％

○……用意している60％というのはかなり高い数字。その材質については〝軍手〟というのは、中学生競技者でもあり実用性が買われてのことであろう。

▽問7　ゴールキーパーにマスクヘッドギヤーをつけさせているか

〔答〕なにもつけない……………60％
　マスクをつける……………10％
　解答なし……………30％

○……プレーの高度化でもっとも危険度が高くなったといわれるのはゴールキーパーで、これは国内外を問わず共通の傾向。

　ヨーロッパではマスクがかなり利用されはじめているらしいが、国内ではほとんど見かけない。この調査でもそうした状態を反映、60％が「なにもつけていない」としている。

　マスクをつけた場合の機敏性のロスや、その効果などがまだ研究されていないからだろう。トップレベルが用いるようになると中学にもひろまるのではないか。

〔結論〕この調査の結果はあくまで今回の「第1回全国中学校指導者講習会」（8月17、18日・四日市）の受講者のみを対象として行われたものであり、ここに示された数字をそのまま結論として判断の資料におきかえることはできないがさいわいにも県別にして8県の人たちから協力を得られたのでいちおうの〝傾向〟が知れたといってよい。

　ただ、県別（地域性）の傾向について論ずることができないのは残念である。

　以下、データに基いてその傾向を述べることにする。

　ボールの大きさについては前述のとおりであり、中学生用として2号ボールを使用している学校が大半を占めているのがはっきりした。なかには現在の2号ボールよりも大きいものを望んでいる者もある。「大きい方がより教育的である」という概念もあり、これらの分析も大切なことになろう。

　最近の中学生の体位の向上とともにボールスピードの増加がシュート時などの危険性に結びついているのかも知れない。

　またハンドボールが今後、授業の中に採りいれられることにより、ボールの確保も当然行わなければならない。

　したがってその費用と質の面に適切な改革が要求されてくるであろう。そのほか、ハンドボール用具、施設においても当然同じようなことがいえる。ゴールポストでは安全性が要求され、それと同時に安い費用であることも条件となろう。

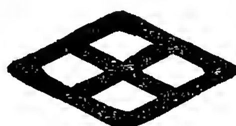
　ゴールキーパーについては、ハンドボールの授業でもっとも留意すべき点だと思う。

　ゴールキーパーに限らずハンドボールという競技そのものが誰にでも好んで行われ、しかも安全な方法、手段を考えなければいけない。今までは好むと好まざるを問わず現行の一般的な方式によってゲームなどが運営されているが今後は年齢の発達段階に応じた指導が必要である。

　それによって用具、施設においてもいっそうの努力と研究も重ねられ、この競技が少年たちの心の中に浸透されるようにならなければならない。

　3回にわたって掲載した「中学校指導者講習会報告」はこれで完結します。

合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸



田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 四日市 6―2156（代表）
郵便番号　512

第五回世界選手権は9ケ国で

71年12月9日～20日 於オランダ各地

別項の通り、第5回女子世界選手権の候補選手も決定し、合宿による強化にはげんでいるが、オランダに於ける本大会の正式招待が12月に日本協会に到着し、日本協会は早速これに出場する申込を行なった。何ケ国が申しこんだかは現在不明であるが、本大会は9ヵ国で行なわれることになっているので予選が行なわれることは必至であろう。日本が男子同様、アジア大陸代表になるかどうかは不明であるが、予選が行なわれる可能性も十分ある。

9ケ国の場合には、3チームずつの予選リーグ、各組1・2位チームによる6チームを二つに分け3チームづつ2グループに分けての準決勝リーグ、それぞれの1・2・3位同士による1・3・5位決定戦という形で試合が行なわれる。

現実の女子の世界の情勢を見ると東ドイツ・ソ連が図ぬけた実力を備えている。中でも東ドイツが国際試合ではすばらしい対戦成績を残している。この二ケ国につぐのがユーゴである。これがここ数年来の力関係で、まずこの三ケ国による優勝争いと見るのが大勢である。

これにつぐのが、ルーマニア、チェコ、ハンガリー、デンマーク、西ドイツの諸国であろう。我が国の力は十分この第二グループに対抗できるものを備えている。

組み合せいかんでは、ベストフォア入りする可能性も十分にある。今後の強化合宿が期待されるところである。

安藤・山田氏ら8名 国際審判員に

このほどIHFの競技委員会から日本協会に届けられた1971年度の国際審判員名簿によると、昨夏、日本協会が提出した候補全員が国際審判員として認定された。

1971年の我が国の国際審判員は下記の8氏（ABC順）

安藤純光、藤田八郎、藤田信義、稲石三二、岡前義春、佐野和夫、嶋田信太郎、山田計

全世界の国際審判員数は一七四名。国別では、西ドイツの13名、フランスの8名、ユーゴーの12名、ノルウェーの7名、ブルガリアの7名、ポーランドの9名、ルーマニアの10名、スウェーデンの8名、ソ連の8名が主なところ。

決勝の特別席六千円 五輪入場料

ミュンヘンオリンピック組織委員会はこのほど開閉会式をはじめ各競技の入場料金を決め発表した。それによるとハンドボールは予選ラウンドが最高20マルク（邦貨約一九六〇円）、最低5マルク（四九〇円）で、準決勝リーグは30マルク（二九四〇円）から10マルクまで、決勝戦は60マルク（五八八〇円）から40、20、10マルクまでの4クラス。

これらの料金はサッカー、水泳バスケットボールなどと肩を並べるものでハンドボールの人気の高さを物語っている。

日体大（男）を推せん 日本スポーツ賞部門賞

日本協会は、読売新聞社制定の第20回日本スポーツ資部門賞として全日本学生と全日本選抜に優勝した日体大（男子）を推せんした。同チームがこの賞へ推されるのは第5回（昭30）についで2度目。

〃〃〃〃〃〃

鈴木前会長に感謝状

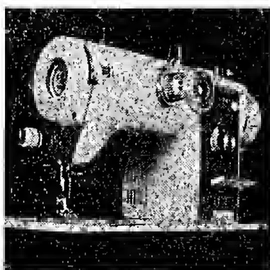
日本協会は12月20日東京体育館で鈴木達雄前会長へ、在任中の功績をたたえて感謝状と記念トロフィーを贈った。

鈴木氏は昭和40年11月から42年3月まで会長代行、42年4月から43年11月まで第4代会長をつとめられていた。

贈呈式はおりから開かれていた全日本選抜選手権のインターバルに行われ、田村会長から感謝のことばと記念品が手渡されるとスタンドを埋めた約四千の観衆もさかんな拍手、鈴木氏も手をあげて応え和やかに式を終えた。



写真は田村会長と握手をかわす鈴木前会長（左）





鍛えぬかれたフォームにこそ、メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

ジューキ

東京重機工業株式会社

西独誌、近森選手を賞讃

近着の西ドイツのスポーツ誌シュポルトは、全日本からハンブルグSVに加った近森克彦選手（26才、芝浦工大―大崎電気）のはげしい斗志と、巧技を賞讃した記事を特集している。

ハンブルグ・SVのペルレベルコーチは「近森選手のテクニックはわれわれにも刺激を与えている彼は今ドイツ語を勉強中だがプレーへのカンがすばらしいので言葉の障害も苦にならない。日を追うにつれ全国リーグでの活躍は大きくなるだろう」と期待、同誌も「近森が西ドイツで得た技術はミュンヘンを目指す日本ハンドボール界にとっても満足すべきものだろう」と結んでいる。

オランダで国際少年大会

オランダ協会は一九六三年から行っていた国際少年少女ハンドボール大会を国際少年少女スポーツ祭典にくみ入れることになったと発表した。

この祭典は去年からはじめられたものでハンドボールのほかバスケットボール、バレーボール、サッカーが実施される。今年の大会は6月25日から27日までライヘンで行われるが出場資格は満20才以下。日本にも初めて招へい状が送られて来たが、日本協会は12月20日の常務理事会で参加しないことに決めた。

近森克彦選手の欧州球信

日本のハンドボール関係者、ファンの皆様には佳い年をお迎えのことと存じます。

ヨーロッパハンドボール界は昨年末からにわかにョナシナルチームの交流が盛んとなり、各地で演じられる激戦の模様がハンブルグにも伝わって来ます。

特筆すべきは東ドイツの躍進でワールドチャンピオン・ルーマニアも6―13（カルパテイ杯）12―16（ベルリントーナメント）と連勝しており、このままの勢いがつづくと今シーズンのメェインタイトルを独占することも夢ではありません。

ユーゴもいっそう安定して来ているようですし、昨春のトップスリーは当分その座を他にゆずることはないでしょう。

ソビエトは相変らず波のある戦いぶりですが、エース・マキシモフ（世界選手権得点王）の活躍は目ざましいものがあるようです。

地元でのオリンピックが刻々とせまる西ドイツもナショナルプレイヤーに72年9月までの全日程を配付し、それに合わせてトレーニング、コンディション調整が出来るように指示するなど着実に〝金メダルへの道〟を歩んでいます。

ドイツ協会の動きも熱っぽく、12月のトビリシトーナメントでユーゴを19―15で破った試合のあと各選手に100マルク（約九千八百円）の報賞金を渡しています。

ユーゴには10月17―25で大敗しており嬉しかったのでしょうがキャッシュを堂々（?）と交付することなど皆様には信じられないと思います。

アマチュアリズム――特に日本流の――はどこへ行ったのかと私も首をかしげます。デンマークの最高プレイヤーJ・ピーターセンも最近、住みなれたHG・コペンハーゲンクラブからスウェーデン国境に近い小クラブへトレーナー兼選手として移籍、裏面で多額なお金が動いたといい〝第二のルブキング事件〟になりかねません

一クラブがこうまでして有力選手を引き抜く背景は、一言でいえば地元の熱狂的な支援に他なりません。本拠地における市民町民の応援は異常でさえあります。

ヨーロッパカップトーナメント準々決勝グンメルスバッハ対ゲッピンゲン（ともに西ドイツ）戦の第2試合（12月23日・ゲッピンゲン）は、ライバル同士の対戦とあって試合前からエキサイト必至といわれ、当日は体育館内に170人、館周辺に30人の警官が配置されるものものしさ。しかも、ゲッピンゲンのジンガー主将は試合前マイクで場内の観衆に対して「決して乱暴な行動をしないように」という要請をするほどでした。

日本で〝ハンドボールの位置〟がここまで高められるのは何時の日でしょうか。

ところで女子の国際交流も活溌となり西ドイツはチャンピオンハンガリーに13―13、11―6という好成績をあげましたが、ルーマニアには9―13、11―19と苦杯をきっしています。西ドイツの連中に日本の女子は君らより上だ、というとムキになって反撃して来ます。

私は現在(12月27日)までブンデスリーガに8試合出場、最高5ポイントをマークしました。

チームプレー、チームメートにも馴れ、今後もなんとか日本人として恥ずかしくないプレーをしたいと考えています。

我々のクラブ（ハンブルグ・スポーツ）は1月20日にソビエト・3月にユーゴのそれぞれナショナルチームを当地に迎えて対戦する予定です。

来日が噂されている
グンメルスバッハチーム

グンメルスバッハというのは、中部ドイツにある小都市のスポーツクラブで、1861年に創設されていますので、もう一〇〇年以上の伝統をもっているスポーツクラブなのです。

陸上競技、体操、サッカー、水泳、テニス、スキー、柔道などの種目が行なわれています。

ハンドボールも従来から行なわれています。11人制でも、かなりの有力チームでしたが、60年代の後半から、7人制に力を入れはじめ、ルーマニアから、エースのシュミット、キーパーのポダクらを入れ、強化に力を入れ、66年以後7人制ハンドボールでは、ドイツで三位とさがったことのない強チームです。

1966年、1967年、1969年には、7人制のドイツ選手権を握っており、間の年の1968年、1970年の両年は第二位になっているというように、三位以下にはなっていないチームであり、実にこの成績は驚くべきことである。

各国のチャンピオンチームによって争われるヨーロッパ杯でも、1967、70の両年に優勝するなど、世界一のチームといっても云いすぎではないでしょう。

関西学連、東海に大勝
初の対抗戦

東海学連主催による地域学連対抗戦・第1回関西学連対東海学連選抜大会は12月13日午後3時から名古屋の愛知県体育館に約千二百人の観衆を集めて行われた。

試合は攻撃力にまさる関西が終始リードを奪い大勝した。

関西学生 24（14－5, 10－9）14 東海学生

○……関西は前半5分川上のゲットで先制、そのあとも中井（オリンピック候補）のリードから中野清水らがロングシュートをとばして得点、16分には7－0と開いた。

出ばなをくじかれた東海は、攻撃にスピードがないうえ、ポストプレーにたよりすぎ、関西ディフェンスの早いつめにあって、まったく反撃の糸口をつかめなかった。

後半も関西は好調で、脇田、塩尻らの好技で20分20－9と大差がついて、せっかくの好企画も盛りあがりのない凡戦に終ってしまった。

関西のまとまりが目立った一戦で東海は今後の練習に再考の余地を残した。

なお、学連の対抗戦は中四国学連対九州学連がすでに3年前から始めているが、この大会は一、二年の内に関東を加え「3地域対抗」へ伸展させる予定だ。

得	【東海学生選抜】			【関西学生選抜】		得
0	戸田	（中京）	GK	入江	（関西大）	0
0	竹内	（名城）	GK	岩田	（同志社）	0
2	吉田	（中京）	FP（審・角横井）	中井	（同志社）	1
0	足立	（中京）	FP	中野	（同志社）	5
2	長縄	（中京）	FP	脇田	（大阪経大）	3
1	成田	（中京）	FP	清水	（大阪経大）	3
2	夏目	（中京）	FP	土田	（桃山学院）	4
2	小川	（中京）	FP	塩尻	（関西大）	4
1	柔島	（名城）	FP	川上	（関学）	2
1	小山	（愛知教大）	FP	三宅	（甲南）	1
1	宮地	（南山）	FP	真継	（京都大）	0
2	工藤	（岐阜大）	FP	中村	（大阪体大）	1
14	（1）		7MT	（3）		24

ナショナ　ームの一員となって

日本体育大学　永海正行

この程、ナショナルチームのメンバーに選ばれ日本の一流選手と合宿を共にし、自分が今まで気の付かなかった事を、この目で見る事が出来ました事は、大変良かったと思います。プレーの面ではもちろんの事、他にたとえば、午前練習と午後練習の合い間の使い方、この事などは短い時間にもかかわらず、練習着すべてをぬぎすて、私服に着がえ、肉体的休養、そして精神的な休養を取る為の方法の一つにしても、他の事にしても生活いろいろな事に対し、詳細に気を配っている様です。プレーに対したけている者は合宿生活にもそれに応じてくると感じました。

これからはこういう人達に少しでも近づくよう努力していきたいと思います。

男女とも地元勢に完勝
東海学連、沖縄へ遠征

東海学連はかねてから学連全般のレベルアップを目的に、男女の学連選抜軍を編成、強化につとめていたが、このほどその成果とチームワークをはかるため12月25日から1月3日まで沖縄に遠征。地元チームと男女あわせて試合を行った。

▽男子
東海学生 30（11－6, 19－4）10 沖縄教員
東海学生（－　－）琉球大
東海学生 17（10－3, 7－5）8 興南高
東海学生（－　－）北部教員

▽女子
東海学生 19（11－2, 8－0）2 浦添高
東海学生（－　－）小禄高
東海学生 15（7－2, 8－0）2 興南高

▽オープン
東海学生（女）（－　－）北農（男）

男女とも中京大勝つ

▼第11回愛知学生選手権（12月・愛知県体育館）

▽男子トーナメント1回戦勝者
中京大A、中京大C、愛知教大A
愛知教大B、南山大A、名城大A
名大B、名古屋工大B

▽同準々決勝
中京大C 11－10 中京大A
愛知教大B 24－10 名工大B
名古屋大B 9－8 名城大A
愛知教大A 16－11 南山大A

▽同準決勝
中京大C 26（13－8, 13－3）11 愛知教大B
名大B 14（8－7, 6－4）11 愛知教大A

▽同3位決定戦
愛知教大B 29－20 愛知教大A

▽同決勝
中京大C 18（11－6, 7－3）9 名大B

中京大系の優勝は11年連続

▽女子1回戦（1試合）
中京女大B 13－3 愛知教大

▽同準決勝
中京女大A 10（6－6, 4－2）8 中京大B
中京大A 19（9－1, 10－4）5 中京女大B

▽同決勝
中京大A 14（7－2, 7－6）8 中京女大A

中京大系の優勝は3年連続4度目。

3専門部を確立
全日本学連理事会

全日本学連では11月大阪で開いた理事会で県案の学連内組織を確立することになり次の3部長を決め発表した。

▽技術部　部長＝江名英彦（立教出）
▽審判部　部長＝宇津野年一（日体大出）▽普及部　部長＝久保義雄（同志社大出）

また、今夏6月に予定されている第5回日韓交流の遠征チームはこれまでの単独校を廃め、選抜軍を編成する。

法政大が初優勝

女子は東京重機

各地の記録

第8回東京選手権は11月30日から12月10日までの5日間、東京駒沢体育館に男子20、女子7のトップチームが参加して開かれた。

男子は2連勝の大崎電気が欠場学生勢と東京教員らの優勝争いとなり、法政－日体イーグルスの決勝はリーグ戦経験者を主力とした法政が前半の貴重なリードを守り切って初優勝を飾った。

女子は予想どおり実業団が進出東京重機が大崎電気の3連勝をはばんだ。

▽男子1回戦
中央大 21－5 L・B・C
日体イーグルス 9－8 法友ク
全日体大 不戦勝 国際経済研
三景 15－11 明治大

▽同2回戦
日体大 10（分）10 中央大
抽せんで日体大の勝ち
早大 37－3 全理科大
日体イーグルス 27－6 上智大
S・D・P 27－12 青山学院大
法政大 13－9 全日体大
国士舘大 17－15 明星ク
東京教員 35－11 日大
三景 19－13 芝浦工大

▽同準々決勝
日体大 12（6－5、6－4）9 早大
日体イーグルス 19（10－11、9－3）14 S・D・P
法政大 24（10－5、14－4）9 国士舘大
東京教員 11（4－7、7－3）10 三景

▽同準決勝
日体イーグルス 16（8－5、8－7）12 日体大
法政大 20（9－11、11－6）17 東京教員

▽同決勝
法政大 14（8－7、6－6）13 日体イーグルス

得	【法政】			【日体】	得
0	川畑	GK		堤	0
4	荒井	FP		八尋	3
2	小林			酒井	3
4	小石川			隅	0
1	中村			田中	0
3	田上			佐藤	3
0	長谷川			福田	2
0	太田			立原	0
0	加藤			森安	2
0	川相			西村	0
0	吉野			高尾	0
14	(0)	7MT		(0)	13

▽女子1回戦（3試合）
日体大 16－1 東京学芸大
日本ビクター 8－3 東京女体大
東京重機 13－3 美和ク

▽同準決勝
大崎電気 10（4－4、6－3）7 日体大
東京重機 8（5－3、3－2）5 日本ビクター

▽同決勝
東京重機 11（7－4、4－4）8 大崎電気

得	【重機】			【大崎】	得
0	長岡	GK		和田	0
0	滝口	FP		木幡	3
3	鷲谷			新島	0
1	長谷川			寺尾	0
4	牧野			三浦	1
2	古佐原			真田	0
1	村上			長谷川	1
0	市川			佐藤	2
0	蟷川			岩井	1
0	葛西				
0	松本				
11	(0)	7MT		(0)	8

日本ビクターが優勝

▼第20回茨城県（女子）総合選手権（11月・石岡商高）

▽準々決勝
水海道二高A 16－1 八郷高B
麻生高B 11－5 石岡商高
日本ビクター 18－3 鉾田二高B
八郷高A 8－7 石岡二高

▽同準決勝
水海道二高A 20－2 麻生高B
日本ビクター 13－5 八郷高A

▽同決勝
日本ビクター 14（6－5、8－4）9 水海道二高A

（注）男子は本誌82号既報

一般男子は琉球大制す

▼第1回沖縄選抜大会（11月・首里高）

▽一般男子1回戦（2試合）
興南イーグルス 19－14 中頭ク
那覇ク 20－10 北部教員

▽同準決勝
那覇ク 15－10 沖縄大
琉球大 24－13 興南イーグルス

▽同決勝
琉球大 27（12－2、15－4）6 那覇ク

▽高校男子準決勝
沖縄 10－6 浦添
興南 14－9 那覇商

▽同決勝
興南 18（5－4、13－5）9 沖縄

▽同女子準決勝
那覇商 10－6 興南
小禄 13－2 浦添

▽同決勝
小禄 14（6－3、8－4）7 那覇商

桜丘会久々に優勝

▼第10回愛知クラブリーグ（11月 名古屋）

▽一部
桜丘会 － 鯱ク
名城ク － 中京ク
名城ク － 東海ク
桜丘会 22－9 中京ク
鯱ク － 東海ク
名城ク － 大江ク
中京ク 13－12 東海ク
桜丘会 27－10 大江ク
鯱ク 25－12 大江ク
桜丘会 26－11 東海ク
鯱ク 20－11 名城ク
中京ク 22－19 大江ク
大江ク 19－15 東海ク
桜丘会 20－10 名城ク
鯱ク 20－15 中京ク

【順位】①桜丘会②鯱ク③名城ク④中京ク⑤大江ク⑥東海ク

【一部順位】①愛教ク②東山ク③名大ク④桜丘会B⑤南山ク⑥中川ク⑦愛商ク⑧若松ク

花巻北、初優勝を飾る

▼第14回岩手県高校新人大会（11月・花巻）

▽男子準々決勝
盛岡商 19－3 谷村学院
花巻農 14－4 岩手
花巻北 12－8 盛岡市立
盛岡四 12－2 盛岡一

▽同準決勝
盛岡商 8－6 花巻農
花巻北 6－5 盛岡四

▽同決勝
盛岡商 9（2－4、7－2）6 花巻北
盛岡商は3度目の優勝

▽女子準々決勝
花巻北 3－2 岩手女
大東大原分校 7－5 平館
谷村学院 4－2 花巻南
黒沢尻南 17－3 一関修紅

▽同準決勝
花巻北 4－0 大東大原分校
黒沢尻南 7－2 谷村学院

▽同決勝
花巻北 6（4－1、2－2）3 黒沢尻南
花巻北高は初優勝

男子で水俣工進出

▼熊本県高校新人大会（11月）

▽男子準々決勝
水俣工 14－5 熊本市商
熊本一工 18－6 九州学院
済々黌 20－6 鎮西
熊本 8－3 水俣

▽同準決勝
水俣工 18－10 熊本一工
済々黌 16－12 熊本

▽同決勝
水俣工 14（6－3、8－3）6 済々黌
水俣工高は初優勝

▽女子準々決勝
熊本市立 15－6 水俣
天草 21－5 熊本商
熊本女商 14－6 鹿本商工
九州女学院 8－3 鎮西

▽同準決勝
熊本市立 11－6 天草
熊本女商 10－0 九州女学院

▽同決勝
熊本市立 15（7－8、8－4）12 熊本女商
熊本市立高は2連勝

青森マツダ順当勝ち

▼第10回青森県室内総合選手権（11月・青森西高）

▽男子準々決勝
青森商高 16－6 弘前大
青森マツダ 43－11 青森高A
柏木農高 21－14 三本木高B
青森高OB 15－11 七戸高

▽同準決勝
青森マツダ 25－12 柏木農高
青森高OB 15－11 青森商高

▽同決勝
青森マツダ 22（9－12、13－5）17 青森高OB

▽女子決勝リーグ
青森西高 12－2 三本木高
三本木高 11－8 七戸高
青森西高 15－3 七戸高
【順位】①青森西高②三本木高③七戸高

日川OBに初の栄冠

▼第23回山梨県総合選手権（11月・甲府）

▽男子準々決勝
桜球会 15－5 韮崎工高
塩山商高 14－2 甲府工高
日川OB 13－8 塩山ク
明誠高 14－2 甲府ク

▽同準決勝
塩山商高 13－4 桜球会
日川OB 11－10 明誠高

▽同3位決定戦
桜球会 15－8 明誠高

▽同決勝
日川OB 10（2－4、7－5、1－0、0－0）9 塩山商高
日川OBは初優勝

▽女子準決勝
山梨高B 13－1 一商
山梨高A 7－4 塩山商高

▽同3位決定戦
塩山商高 2－1 一商

▽同決勝
山梨高B 10（6－6、4－3）9 山梨高A
山梨高Bは初優勝

高校男子で吉田が初

▼第8回山梨県高校新人大会（11月・山梨高）

▽男子準々決勝
吉田 4－3 園芸
機山工 14－7 甲府工
明誠 5－4 塩山商
甲府南 7－6 甲府一

▽同準決勝
明誠 6－5 甲府南
吉田 7－5 機山工

▽同決勝
吉田 10（4－1、6－3）4 明誠
吉田高は初優勝

▽女子準々決勝
一商 5－0 甲府商
山梨 10－1 甲府二
塩山商 13－2 園芸
日川 11－6 峡北

▽同準決勝
山梨 7－2 一商
塩山商 11－4 日川

▽同決勝
山梨 11（2－7、5－0、2－0、2－0）7 塩山商
山梨高は6連勝

静岡農と清水商勝つ

▼静岡県高校新人戦（11月・富士高）

▽男子準々決勝
静岡農 11－9 二俣

浜松南 16－8 春野
御殿場 10－9 静岡東
気賀 9－6 清水商
▽同準決勝
静岡農 7－6 浜松南
気賀 13－12 御殿場
▽同決勝
静岡農 12－8 気賀
▽女子準々決勝
清水西 14－1 藤枝西
吉原 5－4 清水女
御殿場 11－8 二俣
清水商 9－6 静岡城北
▽同準決勝
清水西 6－1 吉原
清水商 12－6 御殿場
▽同決勝
清水商 5－4 清水西

波多ク、延長で勝つ

▼第2回東京都クラブ競技会（11月・駒沢）
▽男子準々決勝
早大学院ク 17－8 若木クA
神代ク 11－8 秋川ク
中大附高OB 19－13 大成プレハブ
波多ク 16－12 重機愛球会
▽同準決勝
神代ク 8－7 早大学院ク
波多ク 16－14 中大附高OB
▽同決勝
波多ク 13（5－5、5－5、3－1）11 神代ク
▽女子決勝
小平OG 7（4－0、3－1）1 佼成OG

男子は岩国勢で争覇

▼山口県高校新人大会（11月・岩国工）
▽男子準々決勝
下関中央工 16－11 防府商
岩国 15－5 下関西
下関工 13－3 山口
岩国工 13－5 宇部工
▽同準決勝
岩国 9－4 下関中央工
岩国工 22－3 下関工
▽同決勝
岩国工 23（14－0、9－6）6 岩国
▽女子準々決勝
下関西 11－3 岩国商
徳山 9－3 宇部女
徳山商 15－10 山口中央
岩国 21－0 高森
▽同準決勝
徳山 6－3 下関西
岩国 8－6 徳山商
▽同決勝
徳山 12（8－4、4－3）7 岩国

新居浜工、いぜん強し

▼愛媛県高校新人大会（11月・今治西高）
▽男子準々決勝
新居浜工 19－1 松山北
松山工 17－11 新田
今治西 10－7 松山南
松山東 18－5 松山商
▽同準決勝
新居浜工 6－4 松山工
今治西 5－4 松山東
▽同3位決定戦
松山東 6－5 松山工
▽同決勝
新居浜工 13（6－2、7－1）3 今治西
▽女子準々決勝
松山商 15－12 新居浜西
土居 18－0 東温
大洲農 14－2 今治西
新居浜商 9－0 新居浜東
▽同準決勝
土居 13－4 松山商
新少浜商 19－9 大洲農
▽同決勝
土・居 6（2－4、4－0）4 新居浜商

水海道二高、4位に終る

▼茨城県高校新人大会（11月・石岡二高）
▽男子準々決勝
麻生 11－7 江戸崎
石岡一 10－4 竜ケ崎一
笠間 16－7 土浦一
水戸一 10－4 水戸工
▽同準決勝
麻生 8－3 笠間
石岡一 9－5 水戸一
▽同3位決定戦
笠間 16－14 水戸一
▽同決勝
麻生 19（7－2、12－6）8 石岡一
▽女子準々決勝
八郷 4－3 石岡二
水海道二 7－6 麻生
石岡商 16－2 高萩
笠間 7－4 潮来
▽同準決勝
八郷 10－6 水海道二
石岡商 11－2 笠間
▽同3位決定戦
笠間 9－4 水海道二
▽同決勝
八郷 8（4－3、4－1）4 石岡商

山口教員団が優勝

第11回山口県室内選手権
12チームが昨年12月6日、13日の両日曜日山口県立体育館に集り開催された。
試合は山口教員が武田薬品光、出光徳山の実業団チームを連覇して優勝した。
▽準々決勝
田原下郎クラブ下関 14－11 徳山球友会
出光徳山 25－8 高水クラブ
山口教員団 23－10 田原下郎クラブ山口
東洋ソーダ 棄権 山陽パルプ
▽準決勝
出光徳山 25－22 田原下郎下関クラブ
山口教員団 棄権 東洋ソーダ
▽決勝
山口教員団 24（11－9、13－11）20 出光徳山

編集後記

遅ればせながらおめでとうございます。本年も本誌をどうぞよろしく。

71年ハンドボール界にとってもたいへんな年になりそうです。2月に三国会議、6月には、選抜選手権が初めてこの時期に開かれる。9月には、スウェーデン戦。そして11月には、三国対抗のオリンピック予選。12月には初の冬季開催の全日本総合選手権と新しい試み、今後のハンドボール界の浮沈をかけた事柄が次々に続きます。

本誌もこの重大事を迎え少しでも斯界の発展に努力していきたいと思っています。

杉山編集委員は勤務の関係で、ヨーロッパにでかけました。札幌オリンピック関係の仕事とか言うことです。いよいよオリンピックが近づいてきました。予選までは10ケ月足らず、本大会までも18ケ月この残された期間を有効に使いこのチャンスを生かしたいものです。

これを機会に編集部でも若い力を入れ、マンネリにおちいらないようにしていきたいと思いますどなたか一緒にやろうという人はいませんか。（F）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第八十三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
（昭和四十六年一月二十五日印刷 昭和四十六年二月一日発行）
発行所 日本ハンドボール協会
東（　　）谷区神南一ー一ー一
電（　）代表(467)三一一一
振替 東京 五八三四八番
編集兼発行所 保坂周助
定価百五十円
（年間購読11回・千二百円）